

授業科目名	【新カリ】スポーツ健康科学総論		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	通年
対象学年	1	1	単位数	4.0
科目責任者	吉村 雅文			
科目担当者	吉村・中村充・柳谷・宮本・川田・高澤・荻原・長登・山崎・武田			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツ健康科学部の総論科目として、「スポーツと健康の科学的理解」という大きなテーマに取り組むための入り口として位置付けられる。順天堂大学という医学部を祖とした大学においてスポーツと健康を学ぶ者として知っておいてほしい基礎的な知識や情報、考え方を学び、身に付けることを目指す。また、スポーツ倫理についても触れ、競技者や指導者としてスポーツに取り組む者に求められる倫理観を育む。(オムニバス方式/全28回)</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. スポーツ・運動をベースに、健康の基礎である身体の構造・機能の知識を踏まえて、体力や測定・評価の意義を説明できる。 2. スポーツ・運動を切り口として、現代の社会問題や社会構造を理解して健康概念を幅広くとらえ、健康増進の意義と社会におけるスポーツ・運動の役割を説明できる。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 1. 体力や測定・評価の意義について、スポーツ・運動をベースとした身体の構造・機能の知識を踏まえて述べることができる。(レポート) 2. 健康増進の意義と社会におけるスポーツ・運動の役割について、スポーツ・運動を切り口とした幅広い健康概念に基づき述べるができる。(レポート) 3. 授業中の発言やグループワークの取組状況によって受講態度を評価する。(平常点)</p> <p>【成績評価の方法】 各回授業後の課題レポート(60%)、平常点(40%)を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】 1回の授業について3分の2以上の出席時間がない場合はその回の授業を欠席扱いとする。また遅刻および早退3回で1回分の欠席としてカウントする。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 課題レポートに対して、担任教員が添削してフィードバックする。</p> <p>【テキスト・参考書等】 特になし。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先・オフィスアワー】 担当：中村 充(1号館5階1505号室)：木曜日 10:00~12:00 E-mail：mtnakamu[at]juntendo.ac.jp ([at]を@に変更してください) その他各回の担当者については、各担当者が担当する他科目のシラバスを参照のこと。</p>				
備考				

【学修時間】
この授業は、講義の授業形態による4単位の科目であり、180時間（授業60時間以上）の学修を必要とする内容をもって構成する。

【実務経験のある教員による授業】
該当しない。

【その他】
この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
JSPQ（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 . . .

なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況により、授業計画、成績評価の基準及び方法を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	学部長、研究科長 他	ガイダンス、体育学部からスポーツ健康科学部へ 【授業内容】 本授業の学修目標・展開方法、順天堂大学での学びのルールを解説する。そして、本学の体育学部からスポーツ健康科学部への変遷内容を解説し、社会におけるスポーツの意義について理解を深める。スポーツや健康の知識を身につけることによって、社会的に寄与するリーダーとしてのコーチングに関する概論を学習する。 【授業方法】 講義	（予習：4時間） 順天堂大学体育学部・スポーツ健康科学部の歴史について、HP等で確認しておく。また、スポーツ健康科学部でどんなことを学んでいきたいかについて、自分の考えを整理しておく。 （復習：4時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
2	学部長、研究科長 他	スポーツ健康科学の立場から 【授業内容】 スポーツと健康について、科学的にとらえるスポーツ健康科学の成り立ちについて解説する。また、スポーツ健康科学の立場から社会的に寄与する視点を解説し、スポーツ場面を中心とした指導的役割を担う人材育成の方法を探る。 【授業方法】 講義	（予習：4時間） 順天堂大学体育学部・スポーツ健康科学部の歴史について、HP等で確認しておく。また、スポーツ健康科学部でどんなことを学んでいきたいかについて、自分の考えを整理しておく。 （復習：4時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。
3	大野、荻原 他	大学教育の位置づけ、レポートの書き方 【授業内容】 大学教育の位置づけおよび意義を解説し、大学4年間での学びの課程や、将来への発展について考える。また、受講に際して、効果的な講義ノートの作成やレポート課題への取り組み方についても解説し、実践的な練習を実施する。 【授業方法】 講義	（予習：1時間） 話し言葉と書き言葉の違い、レポートにふさわしい文体について調べる。 （復習：3時間） 本日の講義のうち「大学教育の位置づけ」について、講義ノートを振り返りながら、600字程度でまとめてみる。

4	柳谷・宮本	<p>競技力向上や外傷・障害予防を支えるバイオメカニクス</p> <p>【授業内容】 競技力向上や外傷・障害予防を支えるために、バイオメカニクス的な方法論が果たす役割を実践的な事例を交えながら解説する。そしてスキルをトレーニングすることによって、スポーツパフォーマンス向上への「巧みさ」を獲得する過程について解説する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：1時間) 自身が行っている・行ってきた、あるいは、興味がある競技について、動きや巧みさなどどのように評価するのかについて考える。</p> <p>(復習：3時間) 授業で配布された資料などをもとにレポートを作成する。</p>
5	川田	<p>パフォーマンスを高める心理学</p> <p>【授業内容】 スポーツでのパフォーマンスの促進・抑制要因となる「緊張」のコントロール方法について解説する。そして選手がパフォーマンス発揮に向けた心のトレーニングについて学習し、グループディスカッションを通じて様々な考え方や視点を理解する。</p> <p>【授業方法】 講義、グループディスカッション</p>	<p>(予習：2時間) 自分のパフォーマンスの良かった時と良くなかった時の心理状態について書き留めておく。「緊張」とは何かを調べる。</p> <p>(復習：2時間) 授業の内容を踏まえて、今後の競技生活、競技サポート、日常生活に生かすことのできる視点についてまとめる。</p>
6	渡邊・渡	<p>パラスポーツを順天堂で学ぶ意義</p> <p>【授業内容】 パラスポーツを取りあげながら、障がい者スポーツの現状や抱えている課題について解説する。そして、社会的な課題を理解するとともに、スポーツを通じた関わり方を検討し、指導・支援の方法について模索する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) 高等学校保健体育の体育理論（現代社会におけるスポーツの意義や必要性および豊かなスポーツライフの設計と実践）について振り返っておく。</p> <p>(復習：2時間) スポーツを社会的視点から考え、スポーツがどのような社会的課題の解決に役立つか整理する。</p>
7	鈴木	<p>日本におけるスポーツ界の現状</p> <p>【授業内容】 日本におけるスポーツ界の現状を、主に国際的視点および行政的視点から解説する。また、今後の我が国におけるスポーツ界発展の展望を考えるとともに、各自が大学で学ぶべき内容について整理する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) オリンピック・パラリンピックの歴史について調べる。</p> <p>(復習：2時間) オリンピック・パラリンピックの開催するにあたり、必要なことはなにか？自分の考えをまとめる。</p>

8	富田・坂本・野口	<p>スポーツを介して国際的人材になる</p> <p>【授業内容】 グローバル社会での貢献を目指し、国際的舞台上でのスポーツ活躍経験や世界事情、および研究やマネジメント活動について具体的な事例を示しながら解説する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) グローバル社会で活躍するということはどのようなことが自分の体験をもとにまとめる。</p> <p>(復習：2時間) 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
9	高澤	<p>スポーツ現場におけるプレホスピタルケアの実際～スポーツドクター・トレーナーの立場から～</p> <p>【授業内容】 スポーツ現場におけるプレホスピタルケアについて、事例を挙げながらスポーツドクターおよびトレーナーの立場から解説する。障害を防止するための、あるいは障害発生事後のケア対応について代表事例を示しながら学習する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：2時間) スポーツ外傷・障害の違いについて、各自学ぶ スポーツ現場で多い外傷・障害について、各自学ぶ</p> <p>(復習：2時間) スポーツ現場に多い外傷・障害を把握し、それぞれについて説明できるようにすること スポーツ外傷・障害の予防ステップを整理し、セルフケアの重要性を理解すること</p>
10	大久保・涌井	<p>健康づくりに関する基礎的知識を体系的に大学で学ぶことの意義</p> <p>【授業内容】 大学で学ぶ健康づくりに関する基礎的知識を体系的に解説する。また、健康に関する領域について大学で学ぶことの意義について考える。</p> <p>【授業方法】 講義、グループディスカッション</p>	<p>(予習：2時間) 高等学校保健の健康づくり領域について振り返っておく。</p> <p>(復習：2時間) 大学で学ぶ健康づくり領域と4年間で履修すべき授業科目との関連を整理する。</p>
11	荻原・長登	<p>教育とスポーツ</p> <p>【授業内容】 スポーツの価値、組織のリーダー論、学校における教師の役割について解説する。コミュニケーション力の重要性を学び、対他者力を磨くために必要な各種スキルを理解する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：1時間) スポーツの価値、組織におけるリーダーシップ、学校における保健体育教師の役割について調べておく。</p> <p>(復習：3時間) 講義資料を読み、各々の先生の講義をまとめる。</p>

12	町田・内藤	<p>競技力向上と健康のための生理学 -運動・栄養・休息(睡眠)-</p> <p>【授業内容】 生理学は体の働きを自然科学的に研究する学問であるが、運動時の体の一時的な応答や長期的な適応を明らかにする学問を特に運動生理学と呼ぶ。その研究成果が、実際どのように競技力向上や健康づくりに役立てられているのか、運動・栄養・休息の視点から統合的に学ぶ。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：1時間) あらかじめ指定された資料を読んでおき、出てくる専門用語等を調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>(復習：3時間) 授業内容に基づいて提出されるレポート課題を完成させ、提出する。</p>
13	山崎・武田	<p>スポーツコーチング科学</p> <p>【授業内容】 スポーツコーチング科学とコーチ学について解説し、コーチング方法論としてのトレーニング計画の基礎を理解する。また、コーチに求められる役割について解説し、その役割を担うために素養を理解する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>(予習：1時間) 文部科学省の提案するグッドコーチに関する提言を調べておく。</p> <p>(復習：3時間) スポーツコーチング科学とコーチ学の違いについて、トレーニング計画立案方法と体力と技術の関係性についてレポートにまとめ提出する。</p>
14	吉村	<p>前期の授業内容を振り返り</p> <p>【授業内容】 グループ単位で前期13回の講義を振り返る。提出されていた課題をもととして、大学におけるスポーツ健康科学の学びについてお互いにディスカッションする。他人と意見交換することによって、あらためて自己分析を進め對自己力の向上を図る。</p> <p>【授業方法】 ディスカッション等</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>自身のグループがどのような話し合いを行い、どのようなエピソードを特性要因図にまとめたのかを確認しておく。</p> <p>(復習：5時間) 後期グループ討議の生産性を高めるための振り返りを行う。</p>
15	吉村他	<p>順天堂大学を知る(順天堂の歴史・他学部について)</p> <p>【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ゲストスピーカーによる講義</p>	<p>(予習：4時間) 順天堂大学の歴史や、スポーツ健康科学部以外の学部の概要について、HP等で調べておく。</p> <p>(復習：3時間) 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。</p>

16	吉村 他	<p>順天堂大学を知る（順天堂の歴史・他学部について）</p> <p>【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ゲストスピーカーによる講義</p>	<p>（予習：4時間） 順天堂大学の歴史や、スポーツ健康科学部以外の学部の概要について、HP等で調べておく。</p> <p>（復習：3時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。</p>
17	渡、学生部長	<p>社会生活およびスポーツ界の倫理観、大学教育の意義</p> <p>【授業内容】 順天堂大学の歴史を理解する。他学部の特性や学びを知り、社会に果たすべき順天堂大学の役割を理解し、あらためて本学部の役割や学びについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：3時間） 大学生として、またスポーツ競技者及び指導者として、それぞれの立場に対して社会から求められる倫理観について、近年報道等により取り上げられた問題などを通じて自分なりの考えをまとめておく。</p> <p>（復習：2時間） 本日の講義内容に基づく課題レポートを作成する。</p>
18	廣津、武田、高梨	<p>競技から見た体力</p> <p>【授業内容】 体力の一般論を踏まえ、スポーツ競技に必要な体力を解説する。具体的に複数の競技を取りあげ、スポーツのトレーニングの基本的な考え方と理論体系を解説し、体力と技術・競技力との関係について理解する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：2時間） これまで自分の体力を測るためにどのような項目で測った経験があるか整理しておく</p> <p>（復習：2時間） 授業内容をレポートとして600～800字でまとめる</p>
19	黄田、山口	<p>運動の心理的効果を科学する</p> <p>【授業内容】 心の健康について、臨床心理学・精神保健学・メンタルヘルスなどの知見を中心として、運動との関わりを解説する。運動の心理的効果について、科学的なアプローチについて学習する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：2時間） 中学校・高等学校で学んだ「心の健康」領域の内容について振り返る。</p> <p>（復習：2時間） 講義内容を踏まえ、大学で学ぶべき心の健康領域について整理する。</p>

20	鈴木（宏）、河村	<p>体力測定の方法と意義（累加測定 の歴史と活用）</p> <p>【授業内容】 日本国民の体力推移に基づいて 体力測定の意義を解説し、本学 における累加測定の歴史とその 活用について理解する。体格・ 体力測定に際し、実施方法とそ の留意点について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：2時間） 子供のころの体力テストについてどのような内容 のものであったかをまとめておく。</p> <p>（復習：2時間） 健康21プランについてまとめておく。</p>
21	鈴木（宏）、河村	<p>体格・体力測定の実際（累加測 定への参加）</p> <p>【授業内容】 体格・体力測定について、実施 者と検者を実践する。</p> <p>【授業方法】 演習</p>	<p>（予習：1時間） 累加測定の実施内容について測定の方法を調べる 。</p> <p>（復習：3時間） 測定データを整理しておく。</p>
22	鈴木（宏）、河村	<p>体格・体力の評価と活用</p> <p>【授業内容】 前回に実施した体格・体力測定 のデータを利用し、その評価方 法と活用方法について解説し、 データの分析を行ってみる。</p> <p>【授業方法】 講義、演習</p>	<p>（予習：1時間） 体力測定のデータと他者とのデータを比較する。</p> <p>（復習：3時間） 体力テスト結果の集計をおこなう。</p>
23	福、宮本（恵）	<p>【研究最前線】スポーツ・健康 と遺伝：競技力から生活習慣病 ・長寿研究まで</p> <p>【授業内容】 現在、最前線で活躍する研究者 により、その実際と中身につい てわかりやすく解説し、さらな る展望を紹介する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：2時間） スポーツ科学の研究とはどのようなものがあるか を調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 卒業研究としてどのような研究を実際におこなっ てみたいか？講義の内容をふまえてプランをたて る。</p>
24	深尾、室伏	<p>生活習慣病とスポーツ医学</p> <p>【授業内容】 生活習慣病とスポーツ医学との 関連について、現状に基づいて 解説する。また、スポーツにお けるアンチ・ドーピングについ て解説し、アスリートして必要 なドーピング知識を理解する。</p> <p>【授業方法】 講義</p>	<p>（予習：2時間） インターネットや教科書等を使用し、生活習慣病 や生活習慣関連病、ドーピングについて調べる。</p> <p>（復習：2時間） スポーツと生活習慣病の関連、およびアンチ・ド ーピングについて自分の考えをまとめる。</p>

25	木藤、黒須、 工藤、野口	スポーツと健康に関する国際的な取組と政策展開 【授業内容】 現代社会において国際的に展開されている、スポーツと健康に関する取り組みと政策について解説し、日本との共通点や日本の独自性について理解する。 【授業方法】 講義	(予習：2時間) 日本のスポーツ政策について調べる。 (復習：2時間) 授業で学んだ内容を時系列又は国ごと若しくは地域ごとに整理し、レポートにまとめる。
26	鈴木(宏) 松山、川田、鯉川	ライフステージとスポーツ 【授業内容】 乳幼児期から青年期までの子どもにおけるスポーツと多様性・格差について、社会福祉、心、性、発育発達の視点から解説する。 【授業方法】 講義、ディスカッション	(予習：1時間) スポーツと多様性・格差に関する時事問題を調べておく。 (復習：3時間) 今回の授業までにレポートを書き終えておく。
27	涌井、飯嶋、 黄田	ライフステージとスポーツ 【授業内容】 高齢期における身体特徴や運動の基本・特性に基づいた運動指導の考え方およびロコモや認知症予防における運動介入等の実践方法について学ぶ。	予習：1時間) サルコペニア、ロコモ、フレイルの専門用語を調べ理解し、説明できるようにしておく。 (復習：3時間) 授業内容に基づいて提出されるレポート課題を完成させ、提出する。
28	就職・教職・大学 院	キャリアプランニングについて考える 【授業内容】 豊かな生き方・働き方を実現するため、どのような職業(企業・教職・公務員)に就くべきかを考える。そして、キャリアプランニングに必要な社会人基礎力の習得に向けて、キャリアアンカーとキャリアサバイバルの両概念を解説する。 【授業方法】 演習	(予習：2時間) キャリアプランについて自分の考えをまとめておく。 (復習：3時間) 一年間を通したスポーツ健康科学総論の学びをレポートにまとめる。
		定期試験は実施しない	

授業科目名	【新カリ】体育原理		授業形態	講義・単独
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	小野 雄大			
科目担当者	小野 雄大			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本授業では、学校体育や現代スポーツをとりまく諸問題について批判的に思考することを通して、体育・スポーツの原理・原則について深く学んでいく。具体的には、体育・スポーツをめぐる倫理的諸問題を取り上げながら、体育・スポーツの目的や存在意義、さらには教育的価値について、哲学的ないし歴史社会学的視点から講じていく。こうした学習を通して、体育教師やスポーツ指導者として体育・スポーツに関わっていくための基礎的な知識と思考力、そして高い倫理観を身に付けることを目的とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 体育・スポーツの諸概念についての理解を深め、論理的に説明することができる。 2. 体育・スポーツの原理・原則についての理解を深め、論理的に説明することができる。 3. 体育・スポーツを取り巻く諸問題について批判的に思考し、その解決に向けた自分の見解を導出することができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. リフレクションシートでは、授業内容を踏まえつつ、自分の見解を的確かつ具体的に述べることができる。（リフレクションシート） 2. 定期試験では、体育・スポーツの概念や存在意義、倫理的諸問題の解決策などについて論理的に説明することができる。（定期試験） 3. その他、学習態度・意欲を授業中の発言やグループディスカッションへの取り組み状況から評価する。（平常点）</p> <p>【成績評価の方法】 毎時のリフレクションシート（40%）、定期試験（50%）、平常点（10%）</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 必要に応じてメールを介して行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 授業中に適宜資料を配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：小野 雄大（本務校：早稲田大学） E-mail：y-ono.sps[at]aoni.waseda.jp [at]を@に変換してください</p> <p>【オフィスアワー】 事前にメールで日程を相談の上、授業時間後に非常勤講師室で対応する。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 本授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、成績評価の基準、方法及び授業計画が変更になる場合がある。</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	小野	<p>【授業内容】 オリエンテーション：体育原理とはどのような学問か？</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。本授業の導入として、まず体育原理の学問的位置づけと今日的意義について理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間）</p> <p>現代の体育・スポーツを取り巻く諸問題について調べ、その背景について理解を深めておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
2	小野	<p>【授業内容】 体育・スポーツの概念：体育とスポーツは何が違うのか？</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。体育とスポーツの概念の異同について、歴史的・社会的背景を踏まえながら理解し、今後の展望を考える。</p>	<p>（予習：3時間） マスメディアにおける体育とスポーツの混同と混用の事例を調べておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
3	小野	<p>【授業内容】 スポーツにおけるフェアプレイ</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。フェアプレイの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 身近にみられるフェアプレイの行動事例を整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
4	小野	<p>【授業内容】 スポーツパーソンシップのあり方</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。スポーツパーソンシップの意味・特質の検討を通して、スポーツ規範の教育的価値への理解を深める。</p>	<p>（予習：2時間） 身近にみられるスポーツパーソンシップの事例を整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
5	小野	<p>【授業内容】 スポーツと競争：スポーツにおける競争の特質とは？</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。スポーツにおける競争の文化的特質をめぐる議論を通して、スポーツ教育場面における競争の在り方を考える。</p>	<p>（予習：2時間） 競争の正と負の側面を整理しておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>

6	小野	<p>【授業内容】 スポーツとドーピング</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。ドーピングの定義や技術をめぐる歴史的展開への理解を深める。</p>	<p>(予習:3時間) ドーピングの定義と語源について整理しておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
7	小野	<p>【授業内容】 スポーツとドーピング</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。ドーピング禁止論と容認論の見解を確認した上で、ドーピングをめぐる倫理とジレンマについて理解を深める。</p>	<p>(予習:3時間) アンチ・ドーピング教育の意義と課題点について整理しておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
8	小野	<p>【授業内容】 スポーツ組織とガバナンス</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。スポーツ組織のガバナンスをめぐる問題について、特に「インテグリティ」という視点から理解を深める。</p>	<p>(予習:2時間) スポーツ組織の種類を分類し、それぞれの特徴について理解を深めておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
9	小野	<p>【授業内容】 大学スポーツの原理</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。大学スポーツをめぐる歴史的過程と日本の特質を踏まえて、学生アスリートの位置づけを議論する。そして、これからの大学スポーツの在り方を展望する。</p>	<p>(予習:2時間) 昨今の大学スポーツをめぐる諸問題を整理し、その問題の背景について理解を深めておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
10	小野	<p>【授業内容】 eスポーツと新時代のスポーツ</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。eスポーツをめぐる議論に着目しながら、新時代のスポーツ概念について展望する。</p>	<p>(予習:2時間) eスポーツの発展史について調べ、その特徴について理解を深めておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
11	小野	<p>【授業内容】 運動部活動の原理</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。運動部活動の歴史的過程や日本の特質を踏まえて、その意義と課題への理解を深める。</p>	<p>(予習:2時間) 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を読み、その狙いと今後の課題について理解を深めておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
12	小野	<p>【授業内容】 教科体育の原理</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。教科体育の基本的性格や目標・内容の検討を通して、教科体育で何を教えるのか、その内容と位置づけへの理解を深める。</p>	<p>(予習:3時間) 保健体育科の学習指導要領における目標の変遷を整理し、その特徴について理解を深めておく。</p> <p>(復習:2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>

13	小野	<p>【授業内容】 コーチングの原理</p> <p>【授業方法】 講義&グループディスカッション形式で行う。コーチングの概念や構造を踏まえて、コーチの役割について理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) 「コーチング」と「ティーチング」の異同について整理しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
14	小野	<p>【授業内容】 アマチュアリズムとプロフェッショナリズム</p> <p>【授業方法】 講義&映像視聴形式で行う。スポーツにおけるアマチュアリズムとプロフェッショナリズムを比較検討し、スポーツの抱える構造的問題について理解を深める。</p>	<p>(予習：2時間) アマチュアリズムをめぐる歴史的な議論を整理しておく。</p> <p>(復習：2時間) 授業内で取り上げた内容について、参考文献等を読んで事後理解を深める。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】生理学		授業形態	講義・複数
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	和氣 秀文			
科目担当者	和氣 秀文 山中 航			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツ健康科学分野の基盤知識である「人体の仕組み」について、機能的側面から理解を深めることを目的とする。人体を構成する各器官系（パーツ）、すなわち呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、神経・感覚器系、自律神経・内分泌器系、運動器系、生殖器系そして血液について、系統的な学修を行うとともに、各パーツの相互作用についても理解を深め、個体（人体）の生命活動の仕組みについて体系的に説明できる素養を身に付ける。一斉授業であるが、グループワーク（1グループにつき10名程度）も行い、協力して講義内容の理解度を深めるようにする。また、ICTを用いた授業も展開する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1．人体を構成する各器官系（パーツ）の機能について論理的に説明することができる。 2．各器官系の相互作用、すなわち個体（人体）の生命活動の仕組みについて説明することができる。 3．生体の恒常性を維持する仕組みについて説明することができる。</p>			
成績評価	<p>[成績評価の基準] 1．人体を構成する各器官系（パーツ）の機能について論理的に説明することができる（定期試験）。 2．各器官系の相互作用、すなわち個体（人体）の生命活動の仕組みについて説明することができる（定期試験）。 3．生体の恒常性を維持する仕組みについて説明することができる（定期試験）。 4．授業中の発言、予習・復習の取組状況、グループワークにおける貢献度によって授業態度を評価する（平常点）。</p> <p>[成績評価の方法] 平常点（10%）、定期試験（90%）を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 機能解剖学を受講していることが望ましい。毎回の講義資料をJ-Passにアップしているため、以下の参考書も参考にしながら、予習と復習をするように努めること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題レポートを毎回提示し、翌週の授業で解説を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 「系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学（人体の構造と機能1）、坂井建雄ほか、医学書院</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 和氣 秀文：hwaki@juntendo.ac.jp 山中 航：k-yamana@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 和氣 秀文：火曜日午後、スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9304） 山中 航：火曜日午後、スポーツ健康医科学研究所3階 生理学研究室（9306）</p>			
備考				

【学修時間】
 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備時間60時間の計90時間の学習を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。

【その他】
 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）
 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 生理学（運動生理学を含む。）
 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 . . .
 第一種衛生管理者

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【ガイダンス：生理学とは】 生理学とは何か、特にスポーツ健康科学分野におけるその意義と重要性について理解を深める。生理学を学ぶための基礎知識を確認する。各器官や組織の大きな役割について理解する。</p> <p>【授業方法】 生理学とは何か、について解説する。10人程度のグループになり、身近で感じる体の不思議について考え、議論させる。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（序章および1章）を読んでおき、生理学に関する基礎知識についてよく調べ理解しておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
2	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【呼吸と血液】 呼吸機能を司る、肺・気道系、胸郭系、呼吸調節系について理解する。また、肺でのガス交換、血液によるガスの運搬、酸・塩基平衡について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 呼吸と血液の生理学について解説する。10人程度のグループになり、呼吸と血液の生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：3時間） テキスト（3章）を読んでおき、「呼吸と血液」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：3時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
3	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【血液の循環 I（心臓の機能）】 心臓を中心に心血管機能について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 心臓の機能について解説する。10人程度のグループになり、循環生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：3時間） テキスト（4章）を読んでおき、「血液の循環（心臓の機能）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。</p> <p>（復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>

4	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【血液の循環 II（心血管調節の仕組み）】 循環動態（血圧、血流量、心拍出量、心拍数）とは何か、またその調節機序について理解を深める。 【授業方法】 心血管調節のしくみについて解説する。10人程度のグループになり、循環生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：3時間） テキスト（4章）を読んでおき、「血液の循環（心血管調節の仕組み）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
5	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【腎臓による体液調節】 腎臓による尿生成機序、また、体液量と浸透圧調節の機序について理解を深める。 【授業方法】 腎臓生理学について解説する。10人程度のグループになり、腎臓生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（5章）を読んでおき、「腎臓と体液調節」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
6	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【栄養の消化と吸収】 口腔内および胃内消化機能、小腸における消化吸収機能、そして排便の仕組みについて理解する。膵臓や肝臓などの役割についても理解を深める。 【授業方法】 消化器系の生理学について解説する。10人程度のグループになり、消化器系の生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（2章）を読んでおき、「栄養の消化と吸収」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
7	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【自律機能の調節】 自律神経系および内分泌系機能について理解する。前者は交感神経および副交感神経の役割について、後者は各種ホルモンの生理作用について理解を深める。 【授業方法】 自律神経系および内分泌系の生理学について解説する。10人程度のグループになり、自律神経系および内分泌系の生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（6章）を読んでおき、「自律機能の調節」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>

8	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【神経系の機能Ⅰ（神経細胞の興奮）】 神経細胞（ニューロン）の機能、特に興奮（活動電位の発生）とその伝導、およびシナプス伝達について学習する。また支持細胞（グリア）についても理解を深める。 【授業方法】 神経生理学の基礎について解説する。10人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（8章A）を読んでおき、「神経系の機能（神経細胞の興奮）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
9	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【神経系の機能Ⅱ（脊髄、脳幹および間脳）】 脊髄の機能（脊髄反射）、脳幹および間脳による自律機能などについて理解を深める。 【授業方法】 神経生理学（脊髄、脳幹および間脳）について解説する。10人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（8章AからCおよび9章C）を読んでおき、「神経系の機能（脊髄、脳幹および間脳）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
10	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【神経系の機能Ⅲ（小脳と大脳）】 小脳や大脳による運動機能、大脳（および間脳）による高次機能（本能・情動行動や記憶など）について理解を深める。 【授業方法】 神経生理学（小脳と大脳）について解説する。10人程度のグループになり、神経生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（8章DからE）を読んでおき、「神経系の機能（小脳と大脳）」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
11	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【感覚の受容】 感覚の種類や質について理解する。体性感覚（皮膚感覚など）、内臓感覚、および特殊感覚（視覚など）について情報受容の仕組みと理解を深める。 【授業方法】 感覚生理学について解説する。10人程度のグループになり、感覚生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（8章FからJ）を読んでおき、「感覚の受容」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
12	和氣山中	<p>【授業内容】 テーマ：【筋の収縮】 骨格筋および平滑筋収縮の機序、骨格筋の収縮様式や力学的特性について理解を深める。 【授業方法】 筋生理学について解説する。10人程度のグループになり、筋生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（7章H）を読んでおき、「筋の収縮」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>

13	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【人体の防御機能】 白血球による免疫機能を中心に、病原性微生物に対する生体の防御機能について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 生体防御機能について解説する。10人程度のグループになり、生体防御機能（特に白血球の役割）に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（9章B）を読んでおき、「人体の防御機能」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
14	和氣 山中	<p>【授業内容】 テーマ：【生殖、発生、老化、ほか】 生殖機能、受精と胎児の発生機序、そして成長と老化の機序などについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 生殖、発生、老化の生理学について解説する。10人程度のグループになり、生殖、発生、老化の生理学に関する課題について議論する。</p>	<p>（予習：2時間） テキスト（10章）を読んでおき、「生殖、発生、老化」に関連する専門用語等をよく調べ理解し、説明できるようにしておく。 （復習：2時間） 授業の内容を参考書と照らし合わせて、ノートに纏める。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】機能解剖学		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	窪田 敦之			
科目担当者	窪田 敦之、和氣 秀文、山中 航			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。『身体の構造と機能』について理解することは、スポーツ健康科学分野を学ぶ上で重要な基盤となる。骨格や関節、筋を中心とした運動器の構造や特徴、役割について理解し、これらの理解を深める上で重要となる基本的な用語等についても学修する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は、スポーツ健康科学部の学位授与方針に定める「スポーツ健康科学を中心とした教養」を身につけ、また「スポーツや健康の分野で、指導的な役割を果たすために必要な高い倫理観」を養う科目としても位置づけられる。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる。 2. 運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる。 3. 身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機能解剖学に関わる基本的な用語を正しく説明することができる（定期試験）。 2. 運動器について部位別に名称や構造、機能を正しく理解し、身体運動の仕組みを説明することができる（定期試験・レポート課題）。 3. 身体運動において重要となる運動器以外の器官（呼吸器、循環器、消化器等）についても、形態や構造について説明することができる（定期試験）。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>定期試験（60%）、小テスト（20%）レポート課題（10%）、日々の学習状況（授業に取り組む姿勢や質問に対する積極性：10%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>授業で出された小テストや課題については、授業内で解説をするかコメントをつけて返却をする。定期試験については、要望があれば個別に解説等を行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>中村千秋，竹内真希翻訳，医道の日本社，1997 公認アスレティックトレーナー専門テキスト 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学（人体の構造と機能1）、坂井建雄ほか、医学書院、2018</p> <p>必ず用意しなければならないテキストではないが、課題や自主学習に取り組む際の資料として推奨する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：窪田敦之 e-mail：akubota[at]juntendo.ac.jp（[at]を@に変更する）</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日 時：木曜日の14時～16時 場所：スポーツ健康医科学研究所 4階 スポーツ医学系実験室1-2 なるべく事前にe-mail等で連絡するよう心がけてほしい。</p>				
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。</p> <p>【その他】 卒業後の希望進路に関わらず、スポーツ健康科学分野の学生として身体の構造や仕組みに興味を持って欲しい。</p> <p>この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）AT（アスレチックトレーナー） 健康・体力づくり財団 健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	窪田	<p>【授業内容】 機能解剖学の基本的な知識について理解する。</p> <p>【授業方法】 機能解剖学の基本的な用語について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 全身の骨格を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。</p> <p>（復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
2	窪田	<p>【授業内容】 機能解剖学の基本的な知識について理解する。</p> <p>【授業方法】 骨や筋、関節の種類について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 全身の筋、関節を調べて、わからない用語等をノートにまとめておく。</p> <p>（復習：2時間） 予習で書き留めた内容と授業で学んだ内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
3	窪田	<p>【授業内容】 肩甲帯・肩関節の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 肩甲帯・肩関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 肩甲帯・肩関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>（復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
4	窪田	<p>【授業内容】 肘関節および前腕部の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 肘関節および前腕部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。実際の動きから、肘関節と前腕の動きの違いについて考えさせる。</p>	<p>（予習：2時間） 肘関節および前腕部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>（復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
5	窪田	<p>【授業内容】 手関節および手部の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 手関節および手部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。</p>	<p>（予習：2時間） 手関節および手部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>（復習：3時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>

6	窪田	<p>【授業内容】 体幹部の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 体幹部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 体幹部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
7	窪田	<p>【授業内容】 股関節の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 股関節の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。</p>	<p>(予習：3時間) 股関節の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
8	窪田	<p>【授業内容】 膝関節および大腿部の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 膝関節および大腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。 また、二関節筋について説明し、実際の動きから体感する。</p>	<p>(予習：2時間) 膝関節および大腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、股関節について復習しておく。</p> <p>(復習：3時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
9	窪田	<p>【授業内容】 足部・足関節および下腿部の構造と機能について理解する。</p> <p>【授業方法】 足部・足関節および腿部の骨格と動き、それらに関わる筋について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 足部・足関節および下腿部の構造と機能について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。また、膝関節について復習しておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
10	和氣	<p>【授業内容】 呼吸器系の形態と構造について理解する。</p> <p>【授業方法】 呼吸機能に関わる肺・気道系について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 呼吸器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
11	和氣	<p>【授業内容】 循環器系の形態と構造について理解する。</p> <p>【授業方法】 血液循環機能に関わる心臓・血管系について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 循環器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
12	和氣	<p>【授業内容】 消化器系の形態と構造について理解する。</p> <p>【授業方法】 消化器系(胃・小腸・大腸など)について解説する。</p>	<p>(予習：2時間) 消化器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>(復習：2時間) 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>

13	和氣	<p>【授業内容】 泌尿器系の形態と構造について理解する。</p> <p>【授業方法】 腎臓を中心に、尿生成や体液・浸透圧調節について解説する。</p>	<p>（予習：3時間） 泌尿器系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>（復習：2時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
14	山中	<p>【授業内容】 神経系の形態と構造について理解する。</p> <p>【授業方法】 情報の受容と処理に関わる脳・脊髄、末梢神経系について理解を深める。</p>	<p>（予習：3時間） 神経系の形態と構造について調べ、疑問点等をノートに書き留めておく。</p> <p>（復習：1時間） 事前に調べたノートの内容と授業の内容を照らし合わせ、不明なところはさらに調べて整理しておく。</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツ指導者に必要な医学的知識		授業形態	講義およびグループディ
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	門屋 悠香			
科目担当者	門屋 悠香、高澤 祐治、室伏 由佳			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 本科目は、講義の授業形態で行われる。スポーツ指導者は、スポーツ活動中におこるアクシデントに対し、冷静かつ的確な行動が必要とされる。この講義では、スポーツ活動中に発生する疾病や外傷・障害だけでなく、コンディショニングや救急処置からドーピングまで幅広い領域にわたって、基本的な医学的知識を解説する。アスリートの安全を守るために必要な基礎的な知識と思考力、そして倫理観を身に付けることを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ現場で起こる医学的問題が説明できる。 2. スポーツ指導者に必要な、医学的問題への予防策と対処法が説明できる。 3. スポーツ現場に必要な安全管理対策を、対象者に合わせて説明できる。 4. コンディショニングの効果と手法が説明できる。 5. アンチ・ドーピングについて理解ができる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ現場で起こる医学的問題を説明できる（定期試験） 2. スポーツ現場で起こる医学的問題への予防策と対処法が説明できる（定期試験） 3. 対象者に合わせたスポーツ活動中の安全管理対策が説明できる（定期試験） 4. ストレッチとアイシングに代表されるコンディショニングの効果と目的を説明できる（定期試験） 5. アンチ・ドーピングの意義について理解ができています（レポート） 6. 授業中や予習・復習の取組状況によって授業態度を評価する（平常点） <p>【成績評価の方法】 課題レポート1回（20%）、定期試験（60%）、平常点（20%）を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				

【履修要件】

「機能解剖学」を受講していることが望ましい。

【履修上の注意（科目独自のルール）】

1. 1回の授業について、出席時間が3分の2に満たない場合は、欠席扱いとする
2. 遅刻及び早退については、出席と異なる扱いとする
3. 受講までにJUNTENDO PASSPORT (JPASS) での課題提出・授業資料のダウンロードができること
4. 受講までに大学アカウント (ドメイン@stud.juntendo.ac.jp) を用いて以下のアプリが使用できること
 - (1) 会議アプリ「zoom」を利用したオンライン受講
 - (2) Google Classroomを利用した資料・課題管理
5. 受講までに以下の準備ができることが望ましい
 - (1) カメラ付きPCまたはタブレット
 - (2) 文書作成ソフト (Word等)、表計算ソフト (Excel等)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint等)

【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】

授業中に課す小テストや課題については、授業内で解説をおこなう。
定期試験については、JUNTENDO PASSPORT (JPASS) を使って解説する。

【テキスト・参考書等】

- ・リファレンスブック（日本スポーツ協会）
 - ・公認スポーツ指導者養成テキスト 共通教科 〃 〃 （日本スポーツ協会）
- 上記テキストは参考書であり、必ず用意す

連絡先とオフィスアワー**【連絡先】**

担当： 門屋 悠香
全てJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」にて対応します。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

【オフィスアワー】

日時：金曜日10：20～12：50
場所：1号館5階1503号室（アスレティックトレーニング学研究室）

質問や相談は予約のあった学生を優先します。他の学生との重複を避けるため、できるだけ事前にJUNTENDO PASSPORT (JPASS) のクラスプロファイル>「Q&A」で予約してください。
その他の連絡先は授業内でお知らせします。

備考**【学修時間】**

この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、90時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容をもって構成する。

【その他】

- この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
- ・JSPQ（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 〃 〃
 - ・JSPQ（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員
 - ・日本障がい者スポーツ協会 初級・障がい者スポーツ指導員
 - ・健康・体力づくり財団 健康運動指導士

また、新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-
------	----	---------------	-------------------------

1	門屋悠香	<p>【授業内容】 スポーツと健康</p> <p>日本の健康の現状とスポーツの役割について理解を深める</p> <p>【授業方法】 ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームについて解説する ペアになり、肥満の判定基準について相手に説明する</p> <p>[キーワード] スポーツと健康 ロコモティブシンドローム メタボリックシンドローム 肥満 EBMとPICO</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>以下の用語について調べる ・運動器 ・サルコペニア ・フレイル</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>日本人の死因について整理する 肥満の判定基準とその特徴について整理する</p> <p>「痩せたい」と望む者に対し、何を把握し、どのようなアドバイスをするかを考える</p>
2	門屋悠香	<p>【授業内容】 成長期とスポーツ スポーツ活動中の健康管理体制</p> <p>成長期のスポーツの特徴と注意点およびスポーツ活動中の健康管理体制について理解を深める</p> <p>【授業方法】 スポーツ活動や学校現場でのメディカルチェックについて、解説する これまでに経験してきた検査や測定目的についてまとめる</p> <p>[キーワード] ジュニア期のスポーツ 健康管理体制 メディカルチェック 感染症対策</p>	<p>(予習：2h)</p> <p>学校定期健康診断について調べる PHV年齢 (PHV: peak height velocity) について調べる 運動器検診について調べる</p> <p>(復習：2h)</p> <p>体育授業と部活動で起こりやすいケガの違いとその要因について考える 健康診断はじめ、これまでに経験してきた検査や測定目的について整理し、確認する</p>
3	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 スポーツと突然死</p> <p>スポーツ活動中の突然死につながる状況の予防と対応について理解を深める</p> <p>【授業方法】 スポーツ活動中の心停止、脳振盪、熱中症について解説する スポーツ活動中の突然死について、過去の事例をもとに解説する</p> <p>[キーワード] 内科的障害と対策(1)急性の障害 突然死、熱中症、脳振盪</p>	<p>(予習：3時間)</p> <p>体温を上げるための身体の仕組みを調べる 体温を下げるための身体の仕組みを調べる</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>脳振盪評価ツールを確認する 熱中症の分類を整理する スポーツ活動中に起きた突然死の事例について再発防止策を考える</p>

4	門屋悠香	<p>【授業内容】 スポーツ現場の救急処置</p> <p>一次救命処置（BLS）について理解を深める</p> <p>【授業方法】 心肺蘇生法、AEDの使用方を主にスポーツ現場での救急処置、観察のポイント、緊急対応計画の重要性について解説する。ペアになり、AEDの使用手順を確認する。</p> <p>[キーワード] 一次救命処置 生命の徴候、ショック症状 緊急対応計画 スポーツを実施する際の安全配慮義務</p>	<p>（予習：2時間）</p> <p>以下の用語について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・死戦期呼吸 ・バイスタンダー ・救命の連鎖 ・善きサマリア人の法 <p>（復習：2時間）</p> <p>バイスタンダーが一次救命処置を円滑に行うために、妨げとなる要因とその改善策を考える</p>
5	門屋悠香	<p>【授業内容】 スポーツ活動中のファーストエイド</p> <p>急なケガや病気への処置法について理解を深める</p> <p>【授業方法】 急なケガや病気の手当について解説する アイシングの適応と禁忌、RICE処置について解説するペアになり、RICE処置の目的と方法を説明する</p> <p>[キーワード] ファーストエイド 外科的応急処置 HOPSS</p>	<p>（予習：2時間）</p> <p>止血点について調べる 血液の扱い方について調べる</p> <p>（復習：3時間）</p> <p>急なケガや病気に対するファーストエイドについて整理する</p>
6	門屋悠香	<p>【授業内容】 性別とスポーツ</p> <p>性別によるトレーナビリティの違いやスポーツをおこなううえでの男女の特徴について理解を深める</p> <p>【授業方法】 貧血、女性アスリートの三徴候について解説する 「年齢・性別を考慮した指導方法」をテーマに、グループで話し合う</p> <p>[キーワード] 女性アスリートの障害と対策 女性アスリートの三徴候 貧血</p>	<p>（予習：2時間）</p> <p>男性と女性の運動器の違いについて調べる 男性ホルモンと女性ホルモンの働きについて調べる スポーツで起こる貧血の種類を調べる</p> <p>（復習：2時間）</p> <p>スポーツ指導者の年齢・性別に対する心構えについて、整理する</p>

7	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 スポーツと精神</p> <p>精神障害とスポーツについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 スポーツに関連した精神的傷害とその対策について解説する 「精神的傷害に対する指導者のあるべき姿」をテーマに、グループで話し合う</p> <p>【キーワード】 スポーツによる精神障害と対策 気分障害、食行動異常 オーバートレーニング症候群 過換気症候群</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>以下の用語について調べる ・Mood Disorder ・Eating Disorder ・過換気症候群</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>スポーツ指導者の精神的障害に対する心構えについて、整理する</p>
8	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 スポーツ外傷・障害</p> <p>下肢のスポーツ外傷・障害について理解を深める</p> <p>【授業方法】 スポーツ外傷・障害について特徴や基本的な対応策について解説する 予習の内容をグループごとに発表する</p> <p>【キーワード】 スポーツ外傷・障害の予防 運動器のしくみと働き</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>上肢と下肢の運動器の特徴について調べる</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを整理し、確認する</p>
9	門屋悠香 高澤祐治	<p>【授業内容】 スポーツと内科的障害</p> <p>スポーツ活動中におこる内科的障害について理解を深める</p> <p>【授業方法】 スポーツ活動に影響する代表的な内科的障害について、解説する 予習の内容をグループごとに発表する</p> <p>【キーワード】 急性の障害(運動誘発アナフィラキシーなど) 慢性の障害(運動誘発性喘息など) スポーツ時に注意すべき病気 特殊環境における障害</p>	<p>(予習：3時間)</p> <p>高地トレーニングでおこる身体の不調について調べる スポーツが関係するアレルギー反応を調べる</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>それぞれの内科的障害についての対処法を整理し、確認する</p>

10	門屋悠香	<p>【授業内容】 スポーツ活動中の体調管理</p> <p>コンディショニングについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 ストレッチ、テーピング、スポーツマッサージについて解説する ペアになり、コンディショニングに関する小テストを作成し、互いに採点する</p> <p>【キーワード】 コンディショニングチェック コンディショニングの手法 傷害予防 疲労回復</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>テーピングの効果について調べる スポーツマッサージの禁忌について調べる</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>ストレッチの効果と目的、種類について整理する テーピングの効果と目的、注意点について整理する</p>
11	門屋悠香	<p>【授業内容】 アスレティックリハビリテーションについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 アスレティックリハビリテーションの概要、必要性、プログラム例などについて解説する ペアになり、アスレティックリハビリテーションとは何かを相手に説明する</p> <p>【キーワード】 競技復帰 再受傷予防</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>アスレティックリハビリテーションの目的について調べる</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>アスレティックリハビリテーションにおいて注意すべき項目を整理する</p>
12	室伏由佳	<p>【授業内容】 アンチ・ドーピング(1) アンチ・ドーピングについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 アンチ・ドーピングについて解説する 講義内容をワークシートにまとめる</p> <p>【キーワード】 アンチ・ドーピングとは アンチ・ドーピングの歴史 アンチ・ドーピング機構 アンチ・ドーピング規程</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) のサイトを閲覧する JADAプロジェクトサイト「For The Real Champion」を閲覧する</p> <p>(復習：2時間)</p> <p>アンチドーピングの意義について整理する</p>

13	室伏由佳	<p>【授業内容】 アンチ・ドーピング(2) ドーピングコントロールについて理解を深める</p> <p>【授業方法】 ドーピングコントロールについて解説する。 講義内容をワークシートにまとめる</p> <p>[キーワード] ドーピングコントロール ドーピング検査 ドーピング検査の結果管理、制裁、上訴 禁止薬物と治療使用特例(TUE)</p>	<p>(予習：2時間) 以下の用語について調べる ・RTP/TPアスリート ・ADAMS ・TUE</p> <p>(復習：2時間) アンチ・ドーピング規則違反について整理する</p>
14	室伏由佳	<p>【授業内容】 アンチ・ドーピング(3)</p> <p>【授業方法】 国内をはじめとするアンチ・ドーピングの教育、啓発活動について解説する 講義内容をワークシートにまとめる</p> <p>[キーワード] アンチ・ドーピング教育、啓発活動 アンチ・ドーピングへの指導者の役割</p>	<p>(予習：3時間)</p> <p>レポート課題 「アンチ・ドーピングについて」(指定等、詳細は別途案内します)</p> <p>(復習：2時間) アンチ・ドーピングにおける指導者の役割について整理する</p>
		定期試験の実施	

授業科目名	【新カリ】スポーツと栄養		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	鈴木 良雄			
科目担当者	鈴木 良雄			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>本科目は、講義の授業形態で行われる。日常生活やスポーツを行う上で知っておくべき食事の整え方と必要な栄養学的基礎知識、栄養・食事アセスメントについて解説する。特に毎日の食事で重要となる三大栄養素の機能、代謝、さらに消化と吸収の機構など、また食事選択の必要な知識を、どのような食事に気をつけて日常生活を送るべきなのかについて、競技特性や競技レベル、トレーニング内容、体組成などをもとに考えていく力を身に付ける。基礎的な栄養学の知識を土台として、身体づくり、体調管理、競技への対応などに活用するための栄養学知識を幅広く習得し、日常生活や競技生活に生かすことを目標とする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識教養」、「医学的知識を備えたスポーツ指導者の育成」、および「スポーツ指導現場に詳しい医科学研究者の育成」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解する。 ・「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に付ける。 ・食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に付ける。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育や現代スポーツにおける食事・栄養について理解しているか。 2. 「日ス指導」「JPSU-ST」「健康運動」に必要な知識を身に付けているか。 3. 食事・栄養指導に関わっていくために必要な知識と思考力、そして高い倫理観を身に付けているか。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>授業態度・取り組む姿勢（20%）、毎回実施する小テスト（20%）、期末のテスト（60%）を総合して評価する</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に実施した小テストは授業の中で解説する。 ・疑問点や意見は、毎回の講義にて小テスト入力フォームにて回収し、個別もしくは講義の中でフィードバックする。 ・期末テストは小テストの内容から抜粋するので、解答は事前に解説済である。 <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>教科書として、「体育・スポーツ指導者と学生のためのスポーツ栄養学」（田口素子・樋口満編集、市村出版）を使用する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】</p> <p>担当：鈴木良雄 E-mail：yssuzuki[at]juntendo.ac.jp [at]を@に変更してください。</p> <p>【オフィスアワー】</p> <p>日時：前期期間中の月曜日9:00から11:00 場所：1号館2階1223室</p> <p>上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生の相談時間とかち合わないようするため、できるだけ前日までにE-mailで予約してください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>				
備考				

【学修時間】
 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業30時間と 準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。
 [実務経験のある教員による授業]
 この科目では、一般企業(食品業界)での勤務経験者である教員が、これまでの経験や知識に基づいて講義を展開する。
 【その他】
 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
 JSP0 (日本スポーツ協会) 公認スポーツ指導者資格 共通科目 . . .
 JSP0 (日本スポーツ協会) ジュニアスポーツ指導員
 健康・体力づくり財団 健康運動指導士
 JPSU (全国体育スポーツ系大学協議会) スポーツトレーナー

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容 (授業方法を含む)	準備学修 (予習・復習) の内容、必要時間 (レポート)
1	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：ガイダンス。エネルギーの代謝とスポーツにおける食事の意義について理解する。 【授業方法】 スポーツにおける栄養の意義について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) テキスト(第1章)をよく読み、必要があれば高等学校の生物で学んだ解糖系、クエン酸回路、電子伝達系を参照して、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
2	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：エネルギー消費量の評価とエネルギーバランス エネルギーの定義、消費エネルギー量の測定方法、アスリートのエネルギー必要量について理解する。 【授業方法】 エネルギーバランスについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第2章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
3	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の身体組成 身体組成のモデル、測定方法、活用方法について理解する。 【授業方法】 身体組成について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第3章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>

4	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：トレーニング後と試合後のリカバリー 炭水化物やたんぱく質など、リカバリーに関わる栄養素と摂取方法を理解する。 【授業方法】 リカバリーと食事（栄養素）摂取について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習・3時間） 教科書（第4章）をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・1時間） 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
5	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：試合前の食事 試合前の食事について理解する。 【授業方法】 試合前の食事の注意点等について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習・3時間） 教科書（第5章）をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・1時間） 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
6	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のたんぱく質・アミノ酸摂取 アミノ酸の整理効果や運動パフォーマンスへの影響、必須アミノ酸やプロテインの筋タンパク代謝への影響について理解する。 【授業方法】 スポーツにおけるアミノ酸たんぱく質の意義や摂取方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習・3時間） 教科書（第6章）をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・1時間） 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
7	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の骨の健康と栄養摂取 スポーツ選手の骨の特徴や、骨の健康に関わる栄養素について理解する。 【授業方法】 スポーツにおける骨の健康や関与する栄養素について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>（予習・3時間） 教科書（第7章）をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 （復習・1時間） 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>

8	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の貧血予防と栄養摂取 貧血の実態、評価方法、予防方法について理解する。</p> <p>【授業方法】 貧血の実態、評価方法、予防方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第8章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
9	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：ビタミン・抗酸化物質と運動 抗酸化ビタミンや活性酸素・抗酸化力について理解する。</p> <p>【授業方法】 運動時と活性酸素の関係やビタミンなどの抗酸化物質について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第9章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
10	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：水分補給 人体における水分の役割や、運動時・暑熱環境下に@ける水分補給の方法について理解する。</p> <p>【授業方法】 人体における水分の役割や、水分補給の方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第10章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
11	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手のウェイトコントロール エネルギーバランスや、減量、ボリュームアップと食事の関係について理解する。</p> <p>【授業方法】 ウェイトコントロールにおけるエネルギーバランスやその調整方法について解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第11章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>

12	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：サプリメントとエルゴジェニックエイド サプリメントの種類、目的、規制、使用方法について理解する。</p> <p>【授業方法】 サプリメントの種類や使用実態・規制などについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第12章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
13	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：ジュニアおよび女性選手の栄養摂取 ジュニア期および女性選手の食事摂取について理解する。</p> <p>【授業方法】 ジュニア期および女性選手の食事摂取で留意すべきことを解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第13章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
14	鈴木 良雄	<p>【授業内容】 テーマ：スポーツ選手の食事管理 スポーツ選手およびサポートスタッフの食事管理について理解する。</p> <p>【授業方法】 スポーツ選手の栄養管理、サポートについて解説する。5人程度のグループになり、小テストの回答を中心に議論する。疑問点や意見・感想を小テストの回答と共に入力フォームに記入して提出する。</p>	<p>(予習・3時間) 教科書(第14、15章)をよく読み、小テストの回答を準備することで、テーマについて理解し説明できるようにしておく。 (復習・1時間) 授業の内容をテキストと照らし合わせて、ノートに纏める。特に小テストで間違えたところを中心に授業内容を見返し、理解を深めておく。</p>
		定期試験を実施する	

授業科目名	【新カリ】スポーツマネジメント総論		授業形態	講義
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	小笠原 悦子			
科目担当者	小笠原悦子・水野基樹・工藤康宏・木藤友規・野口亜弥			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 この授業では、スポーツをサービスととらえ、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を交換しながら、調整していくことというスポーツマネジメントの定義を理解した上で、スポーツマネジメントを扱う分野であらゆる現象を実感できるようになることを目指す。また、スポーツマネジメントの分野の全般を学修する。また、スポーツと法についても授業内でトピックごとに触れながら展開する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「スポーツマネジメント学分野における専門的な知識と技術」を身に付けるための科目として開講される。また、「スポーツ健康科学を中心とした幅広い知識と教養、及びそれらの活用能力」という学位受容方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. スポーツプロダクトの定義についてスポーツマネジメント分野の用語を使って説明できる。 2. スポーツマネジメントの課題を解決するための方策を立案できる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 小テスト（5%×14回＝60%）＋期末テスト（40%）＝100%という配分で評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 各授業に対する取り組み積極的な姿勢およびリアクション（コメント）と期末テストで評価する</p> <p>授業中のリアクション（コメント） 5% × 14回＝60% 期末テスト 40% 合計 100%</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 課題等に対しては、JPASS等を通じてフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 原田宗彦・小笠原悦子（2015）「スポーツマネジメント」（改訂版）大修館書店 「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F.ドラッカー著）ダイヤモンド社 日本スポーツ法学会監修（2017）「スポーツ法学」第2版・エイデル研究所</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：小笠原悦子 E-mail：eogasawa@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：火曜日 2時間目 場所：1号館3階1329室 できるだけ、事前にemailにて面会の予約を取るよう心がけて下さい。</p>			
備考				
授業計画	【授業内容と準備学修等】			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ-	

1	小笠原悦子	<p>(授業内容) オリエンテーションとして、授業の受講方法、評価方法を理解し、スポーツプロダクトとは何かを理解する。</p> <p>(授業方法) 授業の目的、進め方、評価方法等について概説する、スポーツプロダクト について説明する。</p>	<p>(予習：3時間) プロダクトとは何かを調べる。 第1章「スポーツマネジメントの発展」を読む。</p>
2	小笠原悦子	<p>(授業内容) スポーツプロダクトの定義を理解し、スポーツサービスの分類について理解を深める。 第1章「スポーツマネジメントの発展」</p> <p>(授業方法) スポーツをサービスとしてとらえ、サービスの特性を説明する。また、スポーツマネジメントの発展の歴史を学ぶ。小テストを実施する。</p>	<p>(復習：2時間) マネジメントの役割、社会的責任について、重要ポイントを確認する。</p> <p>(予習：3時間) 予習：第1部 マネジメントの使命を読む</p>
3	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第1部 マネジメントの使命 マネジメントの役割、社会的責任 について理解を深める。</p> <p>(授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：2時間) マネジメントの役割、社会的責任について、重要ポイントを確認する。</p> <p>(予習：3時間) 予習：第2部 マネジメントの方法を読む</p>
4	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第2部 マネジメントの方法 マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について理解を深める。</p> <p>(授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。</p>	<p>(復習：2時間) マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能を復習する</p> <p>(予習：3時間) 第3部 マネジメントの戦略を読む</p>
5	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第3部 マネジメントの戦略 トップマネジメント、イノベーション についての理解を深める</p> <p>(授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する</p>	<p>(復習：2時間) トップマネジメント、イノベーションの意味を復習</p> <p>(予習：3時間) 「スポーツマネジメント」(改訂版)の第1章と第2章「スポーツマネジメントの発展」を読む</p>

6	野口亜弥	<p>(授業内容) 第2章「スポーツとメディアの関係、ダイバーシティ」について理解を深める <スポーツの自治・ガバナンスとコンプライアンス> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：2時間) スポーツとメディアの関係、ダイバーシティを復習 (予習：3時間) 第3章「スポーツ関連組織のマネジメント」を読む</p>
7	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第3章 スポーツ関連組織のマネジメント モチベーション・マネジメント、リーダーシップについて理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) モチベーション・マネジメント、リーダーシップについて復習 (予習：3時間) 第4章「組織行動と発展」を読む</p>
8	水野基樹	<p>(授業内容) 第4章 組織行動と発展 スポーツ組織の統治(ガバナンス)および経営戦略について理解を深める。 <スポーツの自治・ガバナンスとコンプライアンス> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) スポーツガバナンスの意味を理解する (予習：3時間) 第5章「スポーツマネジメントに必要な法的知識」を読む</p>
9	木藤友規	<p>(授業内容) 第5章 スポーツマネジメントに必要な法的知識についての理解を深める。 <スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) スポーツにおける法的な知識を整理する (予習：3時間)「第6章スポーツチームのマネジメント」および「第7章スポーツリーグのマネジメント」を読む</p>
10	工藤康宏	<p>(授業内容) 第6章 スポーツチームのマネジメント 第7章 スポーツリーグのマネジメントについて理解を深める <スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) トップアスリートのマネジメントを行っているエージェントをwebsiteで調べる (予習：3時間) 第9章「スポーツ組織のマネジメント」を読んで、Websiteで収支予算書を調べる</p>

11	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第8章 トップスポーツ選手のマネジメントについての理解を深める。 <スポーツ仲裁の方法> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) トップアスリートのマネジメントを行っているエージェントをwebsiteで調べる (予習：3時間) 第9章「スポーツ組織のマネジメント」を読んで、Websiteで収支予算書を調べる</p>
12	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第9章 スポーツ組織のマネジメントについて理解を深める <スポーツ仲裁の事例> (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 国際競技連盟（I F）、国内スポーツ組織（N F）を調べる (予習：3時間) 第10章「スポーツファンのマネジメント」を読む</p>
13	小笠原悦子	<p>(授業内容) 第10章「スポーツファンのマネジメント」について理解を深める (授業方法) PPTで重要ポイントについて説明する。また、動画で関連事項の理解を促す。 小テストを実施する。</p>	<p>(予習：0時間) (復習：4時間) これまで学習した第1章から10章までを総復習する</p>
14	小笠原悦子	期末テスト	

授業科目名	【新カリ】スポーツ社会学		授業形態	講義・単独
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	渡 正			
科目担当者	渡 正			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>現代社会においてスポーツは単なる個人の楽しみであることを超え、大きな社会現象となっている。本授業では、現代のスポーツの形成過程やその思想、課題を社会学の観点から検討する。社会構造の一部としてのスポーツを、社会学の視点から客観的、論理的に考えられるようになることを目指す。特に、現代社会における社会的課題について説明し、社会的思考の基礎を学ぶ。また、こうした課題にスポーツがどのように関係したのか、スポーツはいかにして社会的課題を再生産あるいは解決してきたかを講義とワークによって学び、現代の社会的課題とスポーツの関連について理解を深める。またこれからのスポーツのあり方について理解を深める。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「スポーツ健康科学分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。 2. 現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会的な考え方を理解している。 3. 現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会現象としてスポーツを考え、スポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解している。（小テスト・ワーク） 2. 現代社会におけるスポーツの課題を考えるための社会的な考え方を理解している。（小テスト・定期試験） 3. 現代社会におけるスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できる。（課題レポート） <p>【成績評価の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の最後に行う小テストによって授業内容の理解度を評価する。（10%） ・定期試験によってスポーツ現象の背景的な問題やスポーツの価値と課題を理解しているかを評価する。（50%） ・毎回の授業後に提示する課題レポートからスポーツの課題を社会学の用語を用いて説明できるかを評価する。（30%） ・毎回の授業への取り組みを授業内でのワークの提出状況および内容で評価する。（10%） 				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>特になし。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。</p> <p>本授業では、毎回、ICTを用いてワークの提出などを行う。そのためタブレットPC、ノートPCなどインターネットにアクセスし作業のできる機器を持ち込むことを推奨する。</p> <p>課題レポートは、次回の授業内に模範解答やポイントを提示し、解説する。小テストはその場で回答を明示する。</p> <p>【参考書等】</p> <p>井上俊・菊幸一編著（2020）『新版よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房 筒井淳也・前田泰樹（2017）『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア ギデンズ、A（2009）『社会学第5版』而立書房。</p>				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：渡 正（1号館3階1321室） E-mail：t-watari@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：月曜日 13:00～14:30 場所：1号館3階1321室（スポーツ社会学研究室） 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約してくれた学生を優先するので、前日までにE-mailやJ-Passから連絡してください。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義の授業形態による2単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 . . . 日本障がい者スポーツ協会 初級・障がい者スポーツ指導員</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
<p>授業回数</p>	<p>担当</p>	<p>授業内容（授業方法を含む）</p>	<p>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）</p>
1	渡	<p>【授業内容】 ガイダンス：単位取得上の諸注意、授業展開の概要を述べるとともに、スポーツ社会学に関する知識を深めることがスポーツ科学の学習と実践においてどのような意義を有しているか説明する。 スポーツと社会学の関連のなかで社会の中におけるスポーツの価値について説明する。社会学の基本的な考え方について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（復習：4時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。 履修登録が確実に行われているか再確認しておく。 指定した各種WEBサイトの使い方に習熟しておく</p>
2	渡	<p>授業内容】 社会の変化とスポーツ 戦後の日本社会の変化を外観するとともに、その変化がスポーツへのまなざしがどのように影響しているかをスポーツマンガの表現から考え、スポーツを社会との関連で考え、文化としてのスポーツを考えることの例示を行う。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

3	渡	<p>【授業内容】 近代社会の成立とスポーツの成立 近代社会の成立がスポーツを生み出したことについて説明する。近代社会の成立についてはA. コント、E. デュルケーム、M. ウェーバーらの学説を通して説明する。また、この近代社会におけるスポーツの発生をN. エリアスやE. ダニングらの議論から説明することから、スポーツが近代社会の成立と地続きであることをしめし、スポーツの文化的特性を示す。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
4	渡	<p>【授業内容】 オリンピックの進展 オリンピックの歴史の変遷を社会のマクロな構造との関連性から学習する。また、オリンピズムとオリンピック・ムーブメントの考え方を学び、オリンピズムと相反するオリンピックにおける勝利主義の問題から、スポーツに関わる倫理的課題を考える。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
5	渡	<p>【授業内容】 スポーツにおける商業化とメディアの関係性をM. マクルーハンのメディア論を下敷きに考える。また、近年のスポーツにおける商業化の様相が1984年のロサンゼルスオリンピックから始まっていることと、その仕組と状況を説明する。またメディアによるメガイベント化が、スポーツのインテグリティを傷つけている場面(ドーピングの問題など)を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

6	渡	<p>【授業内容】 スポーツと社会的格差1 社会学における社会階層の概念を説明する。また特にP.ブルデューによる文化的再生産論と社会的格差について理解する。 また、スポーツが基本的人権の一つ(スポーツ権)として捉え守っていく必要性を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
7	渡	<p>【授業内容】 スポーツと社会的格差2 現代社会における社会階層と社会的格差がスポーツ実践にどのように影響しているかを説明し、スポーツフォーオールにむけたスポーツ権の内容とその確立のための方策について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
8	渡	<p>【授業内容】 スポーツとジェンダー・セクシュアリティ1 ジェンダー・セクシュアリティについて、フェミニズムおよびクィア理論の観点から説明し、性・性的嗜好の多様性を理解し、尊重する重要性を説明する。 こうした多様性に対する暴力やハラスメントについて説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 (復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

9	渡	<p>【授業内容】 スポーツとジェンダー・セクシュアリティ2 スポーツがジェンダー・セクシュアリティの多様性に対してどのように否定的に働いてきたか、また現在のスポーツにおいて、その多様性の尊重が課題であることを説明する。その一つの形としてスポーツにおける暴力・ハラスメントの根絶の必要性について説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>(復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
10	渡	<p>【授業内容】 スポーツと人種 スポーツにおける人種の問題を、オリンピックにおける象徴的事例から、どのようにスポーツが人種の排除と統合に影響してきたか考え、社会におけるスポーツが持つ価値と意義を説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>(復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
11	渡	<p>【授業内容】 スポーツと障害者 障害とはなにかを障害社会学の観点から説明する。障害社会学の観点から障害者スポーツをどのように理解できるかを説明し、パラリンピックの可能性を述べる。また、障害者スポーツの意義と理念、その歴史を理解する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>(予習：2時間) J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。</p> <p>(復習：2時間) 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>

12	渡	<p>【授業内容】 スポーツと国際開発 スポーツを途上国の貧困削減や社会的課題に活用する動き（Sport for Development and Peace=SDP）が重要になってきている。ここでは、SDPの観点を持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）との関連のなかで整理し、社会の中でのスポーツの価値をスポーツ権の観点から説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：2時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：2時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
13	渡	<p>【授業内容】 現代社会におけるスポーツの課題として、スポーツのインテグリティの問題がある。スポーツルールの構成を考えることから、ドーピングの問題やハラスメント、暴力について社会的に考え、スポーツのインテグリティについて説明する。またインテグリティ確保の観点から、指導者の資質や能力、プレイヤーズファーストの視点について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
14	渡	<p>【授業内容】 これまで説明してきた現代の社会的課題とスポーツの関係を振り返りながら、スポーツの価値が社会的な状況と関連していることを説明する。このことからスポーツの価値を維持・向上させるために、現代社会におけるスポーツの倫理を考えることが重要であることを説明する。スポーツの社会的状況や課題を踏まえたスポーツ指導者がその価値を体现できることを説明する。</p> <p>【授業方法】 スライドと配布資料を用いて講義を行う。また提示されたワークを行い、他の受講生とディスカッションし、自らの意見を提出する。</p>	<p>（予習：3時間） J-Passにアクセスし、提示された資料を読み、授業内容への理解を深め、課題に回答しておく。 （復習：3時間） 配布資料と講義内容を確認し課題についての小レポートを書く。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】特別支援教育論		授業形態	講義・オムニバス
英語科目名			開講学期	半期（後期）
対象学年	1	1	単位数	2.0
科目責任者	渡邊 貴裕			
科目担当者	渡邊 貴裕 黄田 常嘉 飯嶋 正博 尾高 邦生 渡 正 村上 祐介			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 この授業では通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加し、生きる力を身に付けていくことができるようにするため、彼らの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学修する。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1．インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 2．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性、病理・生理及び学習の過程を理解している。 3．視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 4．発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 5．「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 6．特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 1．特別支援教育の概念について理解しているかを、テストによって評価する。 2．特別支援教育の現状及び課題について、課題レポートから評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 日々の学習状況（10%）、定期試験（60%）、課題レポート（30%）で評価する。なお、授業態度が授業進行上においてふさわしくないと判断した場合は、減点の対象とする。</p>				
履修における留意事項				

<p>【履修要件】 特別支援教育論の単位取得後に、障害者教育総論等、特別支援学校教員免許状取得に係る科目を履修することが望ましい。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。また、遅刻及び早退3回で、1回分の欠席としてカウントする。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 学生同士のディスカッションに対しては、毎回の授業中に解説をすることでフィードバックする。定期試験については、Juntendo Passportを使って解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 渡邊貴裕 他 編：教職課程コアカリキュラム対応版キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育、福村出版、2020 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省） 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省） 特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示 文部科学省） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省） 特別支援学校学習指導要領解説 総則編（平成30年3月 文部科学省） 適宜、資料を配布する。</p>											
<p>連絡先とオフィスアワー</p> <p>【連絡先】 担当：渡邊 貴裕 E-mail：tkwatana@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：火曜日 13時～15時 木曜日 10時～12時 場所：1号館2階1219号室</p>											
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、講義による2単位の科目であり、授業30時間と準備学習60時間の計90時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 この授業は、実務経験のある教員による授業であり、授業担当者が特別支援学校教諭の勤務経験を持ち、その経験を踏まえた実践的な内容を教授する授業である</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPQ（日本スポーツ協会）公認スポーツ指導者資格 共通科目 ・ ・ 日本障がい者スポーツ協会 初級・障がい者スポーツ指導員</p>											
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業回数</th> <th>担当</th> <th>授業内容（授業方法を含む）</th> <th>準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>渡</td> <td> <p>【授業内容】 障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p> </td> <td> <p>(予習：1時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>				授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）	1	渡	<p>【授業内容】 障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）								
1	渡	<p>【授業内容】 障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>								

2	渡	<p>【授業内容】 障害者権利条約の批准とそれを受けての国内の法体制整備について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
3	渡邊	<p>【授業内容】 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。障がい者スポーツ推進、地域の振興の現状について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 インクルーシブ教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
4	黄田	<p>【授業内容】 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達と、心理的特性及び学習過程を理解する。</p> <p>【授業方法】 発達障害についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
5	黄田	<p>【授業内容】精神障がいをはじめ、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の生理・病理について理解する。</p> <p>【授業方法】 医療機関における事例を視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
6	渡邊	<p>【授業内容】内部障がいをはじめ、視覚障害・聴覚障害の特性とその支援について理解する。</p> <p>【授業方法】 視覚障害・聴覚障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
7	飯嶋	<p>【授業内容】 肢体不自由・病弱の障害特性とその支援について理解する。</p> <p>【授業方法】 肢体不自由・病弱について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
8	尾高	<p>【授業内容】発達障がいと、知的障害の障害特性とその支援について理解する。</p> <p>【授業方法】 知的障害について、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>

9	渡邊	<p>【授業内容】 特別支援教育に関する教育課程について理解する。</p> <p>【授業方法】 特別支援学校についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
10	飯嶋	<p>【授業内容】 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への支援方法について理解する。また、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 特別支援教育についてのVTRを視聴し、支援方法についてグループワークを行う。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
11	尾高	<p>【授業内容】 特別支援教育コーディネーター及び家庭、関連機関との連携について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
12	飯嶋	<p>【授業内容】 外国籍及び貧困による特別の教育的ニーズとその対応について理解する。</p> <p>【授業方法】 授業内容に関して講義を聞いた後、個人で考え、その後パートナーとお互いの回答を比較する。その後、全体で共有する。</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
13	尾高	<p>【授業内容】 障害者スポーツの国際競技大会について理解する。全国障がい者スポーツ大会の歴史・意義・目的などについてスポーツ参加の動機づけを学ぶ。</p> <p>【授業方法】 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、デフリンピックについてのVTRを視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：2時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：2.5時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
14	渡	<p>【授業内容】 日本の障害者スポーツの歴史と展望、指導者養成制度について理解する。障がい者福祉施策(スポーツ基本法・基本計画等)について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 全国障がい者スポーツ大会等についてのVTRを視聴し、授業内容に関連した質問を小グループで話し合う</p>	<p>(予習：3時間)</p> <p>J-Pass上に資料を提示しておくので各自読んでから授業を受ける。</p> <p>(復習：3時間) 授業の概要についてレポートにまとめる。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】体づくり運動		授業形態	実技・クラス分け・複数
英語科目名			開講学期	半期（前期または後期）
対象学年	1	1	単位数	1.0
科目責任者	青木 和浩			
科目担当者	青木 和浩			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 「体づくり運動」は中学・高等学校学習指導要領の必修科目になっている。更に小学校においても必修科目となり、特別支援学校を含めた学校体育において重要な科目である。本授業では「体づくり運動」を新しく改定された学習指導要領の内容に沿って授業を展開する。また、近年、学校現場で課題となっている運動嫌いをなくすための運動についての対応も積極的に実施する。授業内容は、体づくり運動における「体の動きを高める運動」と「体ほぐしの運動」に関する運動の実施と運動方法の提案を行う。さらに、体づくり運動に関する教材の作成と検討、指導案の立案と模擬授業の実施、評価を行う。</p> <p>授業の概要、評価方法、履修における留意点などを説明する。そして「体づくり運動」への理解を深めるための知識や実践方法について、授業を行う。また、授業内での筆記試験を実施する。</p> <p>用具を用いない運動、アイスブレイク、跳ぶ運動、ボールを用いた運動、歩く・走る運動、風船や縄を使った運動、這う運動・棒を使った運動などの運動方法を学ぶ。なお、グループに分かれて実技を行う（共同）。障害者スポーツの実施、体育実技授業の導入と展開、学習指導づくり、模擬授業の実施について、グループに分かれて授業を行う（共同）。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 体づくり運動にかかわる運動種目について、児童・生徒の実態に応じた実施方法を習得する。 2. 体づくり運動に関する教材の作成および</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 体づくり運動に関する基礎知識と授業内で経験した実技内容の効果を理解することができる。（授業内筆記試験） 2. 体づくり運動の実技内容を理解し、実技指導することができる。（授業内評価） 3. 指導案を作成し、模擬授業への取り組みを理解することができる。（レポート・成果発表）</p> <p>【成績評価の方法】 授業内評価（実技指導）30%、指導案作成・実施30%、筆記試験40%にて総合的に評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 学科等により受講するクラスが決まっているため、該当する開講時間で受講すること。 1クラスを授業内で2クラスに分けて実施する。授業内容が前後することもあるので、毎授業時の次週の予定を確認すること。</p> <p>1. やむを得ない状況により見学をする場合は、各自見学ノートを作成し提出をすること。 2. 遅刻は減点対象とする。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 授業時にレポート課題のポイントの説明を行う。試験の模範解答は研究室前に掲示する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 授業の時に資料を配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：青木 和浩 E-mail：k-aoki@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 日時：火曜日12:00から12:50 場所：1号館5階1509室 上記の時間帯には、予約なしに質問や相談に応じますが、他の学生からの訪問に対応している可能性がある為、出来るだけ事前にE-mailで予約をしてください。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業科目は、講義と学修を交えた形態による1単位の科目であり、授業・実習30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSPO（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員 JSPO（日本スポーツ協会）AT 健康・体力づくり財団 健康運動指導士 日本障がい者スポーツ協会 初級・障がい者スポーツ指導員 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	青木	<p>【授業内容】 テーマ：ガイダンス・体づくり運動とは？ 当該科目における授業の位置づけ、進め方や成績評価方法について学ぶ。 【授業方法】 授業計画や資料を配布し、授業の概要を口頭説明する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 体づくり運動について、事前に調べる。 （復習：0.5時間） 授業の位置づけ、授業形態・成績評価法・注意事項について理解を深める。</p>
2	青木	<p>【授業内容】 テーマ：「体づくり運動」への理解 体づくり運動の分類と学習指導要領における位置づけを学ぶ。 【授業方法】 講義では配布資料を用いる。実技は体育館にて基礎運動を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） 学習指導要領「体づくり運動」に関する箇所を読む。 （復習：0.5時間） 配布資料を読み「体づくり運動」の分類と目標を整理する。</p>
3	青木	<p>【授業内容】 テーマ：用具を用いない運動 自重を用いた運動やストレッチなど用具を用いない運動について学ぶ。 【授業方法】 自重を用いた運動やストレッチの運動例を行いながら実施方法を理解する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 自重を用いた運動、ストレッチを事前に調べる。 （復習：0.5時間） 用具を用いない運動の実技例を振り返り整理する。</p>
4	青木	<p>【授業内容】 テーマ：アイスブレイク 体ほぐしの運動として、運動遊びを用いた交流の促進について学ぶ。 【授業方法】 運動遊びを通して交流が促進する過程について運動例を行いながら実施方法を理解する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 配布資料を読み「体ほぐしの運動」の運動例を調べておく。 （復習：0.5時間） 「体ほぐしの運動」の運動例としてアイスブレイクの運動方法を振り返り整理する。</p>

5	青木	<p>【授業内容】 テーマ：跳ぶ運動 体の動きを高める運動として跳ぶ運動の方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 様々な跳ぶ運動を実施し、跳躍能力を高める方法を実習する。</p>	<p>(予習：0.5時間) 跳躍運動に関する事前の学習をする。</p> <p>(復習：0.5時間) 体力を高める運動として、小さな跳躍運動や大きな跳躍運動の実技例を整理する。</p>
6	青木	<p>【授業内容】 テーマ：ボールを用いた運動 各種ボールを用いた体の動きを高める運動と体ほぐしの運動(運動遊び)を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 各種ボールを用いて、主に投げる運動の運動例を行いながら実施方法を理解する。</p>	<p>(予習：0.5時間) 様々なボールを用いた運動を事前に調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 様々なボールを用いた運動の実技例を振り返り整理する。</p>
7	青木	<p>【授業内容】 テーマ：歩く・走る運動 歩く運動・走る運動(障害のある児童生徒への運動遊び)の方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 様々な姿勢での歩きや走る運動を行い運動効果について実習する。</p>	<p>(予習：0.5時間) 歩く、走ると行った運動例を事前に調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 様々な姿勢で歩く、複数で走るという実技例を振り返る。</p>
8	青木	<p>【授業内容】 テーマ：風船や縄を使った運動 風船や縄を使った体ほぐしの運動(障害のある児童生徒への運動遊びを含む)の方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 様々な道具を用いた運動を体験し、運動が苦手なものでも運動の効果が高いことを実習する。</p>	<p>(予習：0.5時間) 風船や縄を用いた運動例を事前に調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 風船や縄などの様々な用具を用いた実技例から運動の効果を振り返り整理する。</p>
9	青木	<p>【授業内容】 テーマ：這う運動・棒を使った運動 用器具を用いない這う運動と棒を用いた体づくり運動の方法を学ぶ。</p> <p>【授業方法】 這う動作や棒を用いたゲーム等を用いて体づくり運動の教材を実習する。</p>	<p>(予習：0.5時間) 手押し車や棒を用いた運動例を事前に調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 手押し車や棒を用いたゲームなどの実技例を振り返り整理する。</p>
10	渡邊	<p>【授業内容】 テーマ：障害者スポーツ 障害者スポーツを用いた体ほぐしの運動を理解する。</p> <p>【授業方法】 ボッチャなどのスポーツを実施する。</p>	<p>(予習：0.5時間) パラリンピックスポーツを事前に調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 授業で実施した障害者スポーツのルールや実施方法を振り返り整理する。</p>

11	青木	<p>【授業内容】 テーマ：体育授業の導入と展開 体育授業の導入や展開の方法と指導についてについて学ぶ（ウォーミングアップとクーリングダウンも含む）。</p> <p>【授業方法】 体育授業の導入方法についての説明をもとに、実践する。ねらいに沿った運動の選択と展開についての説明をもとに、実際に運動の展開を提案する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 学習指導案の導入部分について調べておく。</p> <p>（復習：0.5時間） 体育授業の導入の方法と指導について整理し、理解を深める。</p>
12	青木	<p>【授業内容】 テーマ：学習指導案づくり 学習指導案の作成方法について学び、体づくり運動の学習指導案を作成する。</p> <p>【授業方法】 本授業で実施した体力を高める運動および体ほぐしの運動例をもとにして学習指導案を作成する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 配布資料を読み学習指導案について調べておく。</p> <p>（復習：0.5時間） 模擬授業の実施に向けて準備しておく。</p>
13	青木	<p>【授業内容】 テーマ：模擬授業 体づくり運動の模擬授業を行い、振り返りから授業の実施方法について学ぶ。</p> <p>【授業方法】 学生の中から模擬授業者を決め、実際の授業を行う。模擬授業への参加だけではなく振り返りも実施する。</p>	<p>（予習：1時間） 模擬授業実施者の選出と事前準備を行う。</p> <p>（復習：0.5時間） 模擬授業の振り返りから自身が教員になった時に必要な課題を整理する。</p>
14	青木	<p>【授業内容】 テーマ：体づくり運動に関する知識確認 筆記試験を用いて、体づくり運動に関する知識の確認をする</p> <p>【授業方法】 筆記試験形式で知識テストを実施する。また、授業運営に関する内容についても考える。</p>	<p>（予習：1時間） これまでの全ての資料等を用いて知識の確認を行う。</p> <p>（復習：0.5時間） 実施後の内容を自己採点する。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】陸上運動		授業形態	実技
英語科目名			開講学期	前期
対象学年	1		単位数	1.0
科目責任者	山崎 一彦			
科目担当者	鯉川なつえ, 仲村明, 高梨雄太			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】</p> <p>走跳投（短距離・ハードル・リレー・中距離・長距離・跳躍・投てき）の競技特性を理解し実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短距離走は、スタート技術、最高疾走速度の獲得、ハードル走は抜き足の正確な動作、ハードル間インターバルおよび一連の動き（踏切、空中、着地）のハードルクリアランスの正確性、リレーは、パトンゾーンでの減速を軽減し、パトンパスを正確に実践し、指導方法について理解する。 2. 中長距離走は、インターバルトレーニング、12分間走、ランニングエコノミーなどの持久走を実践し、指導方法について理解する。 3. 跳躍は、走高跳・走幅跳の踏切、空中動作、クリアランス、あふり動作、頸反射などの動作を実践し、指導方法について理解する。 4. 投てきは、砲丸投げのグライド投法による力の伝達方法を実践し、指導方法について理解する。 <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】</p> <p>この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 走跳投の基本的動作とルールを理解できる 2. 走跳投の基本的動作および技術を獲得できる 3. 走跳投の指導方法を習得できる 				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 「授業の到達目標」に対応した成績基準を設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種目に関して基本的な運動技術の習得ができたか実習効果測定値にて評価する 2. 学習意欲を評価する 3. 各種目の基本的理解ができているか評価する <p>【成績評価の方法】</p> <p>課題レポート4回(40%)、実技試験(50%)、平常点(10%)を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】</p> <p>実技ができる服装、シューズを着用すること。ただし、危険防止のためスパイクシューズの使用は禁止とする。また、基本的に見学は実習科目であるため原則認めない。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4種目(短距離、ハードル、長距離、跳躍、投擲)において、それぞれ2/3以上の出席がない場合は、その種目の実技試験資格を認めない。 ・各種目の実技試験を受験した上で、平均100点中平均60点以上を獲得しなければならない。ただし、4種目のうち最低2種目は、単独で60点以上を獲得しなければならない。 <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <p>課題レポートは、予習課題の場合は当該授業内で解説を行う。復習課題の場合は、翌週の授業で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省）</p>				
必要な資料は、授業中に適宜配布します。				
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：山崎（短距離走，ハードル走，リレー） E-mail：kayamaza@juntendo.ac.jp 担当：鯉川（中長距離走） E-mail：nkoikawa@juntendo.ac.jp 担当：仲村（中長距離走） E-mail：aknaka@juntendo.ac.jp 担当：高梨（投擲） E-mail：ytakana@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 火曜日 9時～11時 山崎：1号館5階1522室 鯉川：1号館5階1521室 仲村：1号館5階1524室 高梨：1号館5階1523室</p>			
<p>備考</p>			
<p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【実務経験のある教員による授業】 陸上競技においてオリンピック出場経験、実業団活動経験のある教員、日本スポーツ協会公認コーチ資格、JOCナショナルコーチアカデミー修了を持つ教員、日本代表監督およびコーチ経験のある教員が、陸上競技の現場において求められる知識や技術をわかりやすく解説します。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 健康・体力づくり財団 健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>（授業内容） オリエンテーション 受講の諸注意、単位取得の方法、年間を通じた授業の流れ、予習復習の仕方 について理解する</p> <p>（授業方法） 各担当教員から、各種目についての主な特徴、授業での習得目的と目標、授業内容および単位取得の観点、安全上の留意点等について話し、理解してもらうようにする。</p>	<p>【予習：0.5時間】 シラバスを熟読し、授業内容全体の理解をしておく。</p> <p>【復習：0.5時間】 自身の専門種目または興味のある種目についての指導ができるようにするため、教材研究をしておく。</p>

2	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 短距離：短距離走の基本的技術理論を理解する。最高疾走速度を発生させるための理論と実践を行う。 投擲 砲丸投の基本(ルール、安全管理の方法など)について学習し理解をする。</p> <p>(授業方法) 短距離：ピッチ・ストライド長を生むためのメカニズムを学び、まずはストライド長を伸ばす方法について学ぶ。 投擲：実際に砲丸やメディシンボールを使って、砲丸投の動き作りをする。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100m走を速く走るためのメカニズムをテキストで学んでおく。 ・砲丸投フォームの変遷とルールについて配布資料を確認する <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重心位置、前傾、ストライド長、足、膝、股関節角度などの走速度に関わる部位について覚える ・投擲の動作イメージの練習を行う
3	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 短距離：最高疾走速度を発生させるための技術を円滑に行えるようにする。スタート方法について学ぶ?。リレーのバトンパス方法について学ぶ。 投擲 砲丸投(重さに慣れる・突き出し)の基本的動作を習得する。</p> <p>(授業方法) 短距離：様々なクラウチングスタートの方法を実践し、自身にあった技術を選択する。様々なリレーにおけるバトンパス技術を実践する。 投擲：男子5.45kg、女子2.721kgの重さの砲丸を多く投げることで慣れる。突き出しの基本的動作を繰り返し行い習得する。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類のクラウチング・スタートについけ覚える。 ・砲丸投の基本的動作について、配布資料、動画検索などを活用し基本的な動きをチェックする <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角運動保存の法則、作用反作用のようごもりかいておく。 ・動きのイメージを確認する
4	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) ハードル：ハードル走の基本動作を学ぶ。抜き脚、振り上げ脚動作を理解する。 投擲：砲丸投(グライド) グライド動作の導入と基本の習得</p> <p>(授業方法) ハードル：恐怖感を取り除くトレーニング方法を学び、ハードルの特徴的動作で? ある抜き脚動作を実践する。 投擲：グライド動作を習得するために、まずは砲丸を持たずに動作練習を行う。その後、実際に砲丸を投げる。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハードル走について、配布資料を熟読して用語投を理解しておく。 ・グライド動作の習得と突き出し動作の確認 <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語が理解でき、身体表現ができているかをチェックする。 ・実際にグライド動作を用いて砲丸を投げ、グライド動作から突き出しのイメージをつくる。

5	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) ハードル：ハードル間インターバルをリズムよく走れるようにする。 投擲 砲丸投(グライドの完成) グライド動作の習熟 (授業方法) ハードル：ミニハードルを用いて、インターバルを走破するための必要 ストライド長の確保、インターバルのリズムおよび？インターバルからのジャンプ動作を習得する。 投擲：砲丸を繰り返しグライド動作を用いて投げることでグライド動作の習熟を図る。</p>	<p>【予習：0.5時間】 ・配布資料のハードル走のトレーニング方法を理解しておくこと。 ・グライド動作動作のイメージをおこなう</p> <p>【復習：0.5時間】 ・ハードル走の局面（スプリント走～踏切～空中動作～着地～スプリント走）の流れの中で分習した指導方法についてまとめる。 ・グライド動作から突出しまでの流れをチェックする</p>
6	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) ハードル：前半：第1ハードルから第5ハードルまでを完成させる。 投擲 砲丸投の測定方法 (授業方法) ハードル：スタートからのハードルへのアプローチを行う。スタートからハードルを連続して跳ぶ。 投擲 競技会形式で測定をするための方法を学習する。実際に競技会形式で測定を行う。</p>	<p>【予習：0.5時間】 ・ハードル走を速く走るためのメカニズムについて、それぞれのハードル種目の相違点について配布資料を参考にまとめる。 ・投擲動作の全体的な流れを確認する</p> <p>【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、改善点とその指導方法についてまとめる。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する</p>
7	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 短距離/ハードル：短距離・ハードル走の実習効果の測定 投擲 砲丸投(サークルからの投擲)、ルールの理解と実践、審判方法、記録の測定 (授業方法) 短距離/ハードル：前半：短距離走、ハードル走を実践的に行い、測定する。ハードル走は測定後、さらに記録を伸ばすための指導を受け、再度挑戦する。 投擲 実際に記録を測定し、測定方法について理解する。</p>	<p>【予習：0.5時間】 ・体調を整えて授業に臨む。 ・投擲動作の全体的流れをイメージし正しい動作を確認する</p> <p>【復習：0.5時間】 ・自身の測定した結果から、かいぜんてんどお ・ルール、審判方法、記録の測定方法について確認する</p>

8	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 走高跳における跳躍フォームの変遷とルールを理解する。走高跳の基本動作を取得する。 中長距離 ジョギングを通して、個別性を重視する必要性と効果について理解を深める。 (授業方法) 跳躍 走高跳における助走、踏切、ドリルの基本動作を実践する。 中長距離 ゆっくりとしたペースでのジョギングにより、現状の体力を把握し、ジョギングの効果や有効性に加え、注意点等も解説する。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 走高跳の跳躍方法について調べる。 長距離走者に必要な条件を調べる。 <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 走高跳における助走一踏切動作についてイメージする。 ジョギングの有効性を意識し、体調に合わせたジョギングを行う。
9	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 背面跳における助走の走り方、踏切・空中動作の流れをつかむ。 中長距離 効率の良いランニングフォーム習得のためのランニングドリルについて学習する。 (授業方法) 跳躍 助走、踏切、空中動作の分習を行い、一連の動きを行う。 中長距離 ランニングドリルの模範を見せ、ポイントを解説する。正確に行われているか確認する。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 走高跳について図書館などで動画検索し、動きを理解する。 授業で配布した資料から目的や方法を確認する。 <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 走高跳に関する専門用語を学んでおく。動きのイメージを確認する。 ランニングドリルのポイントをまとめる。
10	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 競技会のルールについて学ぶ。背面跳びにおける空中動作を習得する。 中長距離 12分間走の目的と意義について理解を深める。 (授業方法) 跳躍 中長距離 12分間走を行い、最大酸素摂取量に照らし合わせ、持続的能力の確認と12分間走について解説する。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 助走の長さについて配布資料等で確認しておく 12分間走について調べる。 <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 背面跳びのイメージを作る 12分間走と最大酸素摂取量について考察する。
11	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 走幅跳のルールと助走を理解する。 中長距離 インターバルトレーニングの目的や効果、方法について学習する。 (授業方法) 跳躍 助走距離の決定方法と足の合わせ方を習得する。 中長距離 インターバルトレーニングについて質疑応答を行い、このトレーニングのポイントを解説する。レベルに応じたグループを編成し、実際にインターバルトレーニングを行う。</p>	<p>【予習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 走幅跳のイメージを作るため、配布資料を熟読し、website等で 実際の試技を調査しておく。 インターバルトレーニングについて課題レポートを作成する。 <p>【復習：0.5時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の助走の長さを確認しておく。助走をイメージし正しい踏切を確認する。 授業で行ったインターバルトレーニングと心拍数の変動について考察する。

12	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 走幅跳における競技会形式での跳躍練習を行い、ルールと動作について実践する。 中長距離 ウォーキングおよびL・S・D (Long Slow Distance) の目的と効果を学習する。 (授業方法) 跳躍 走幅跳の実習効果を測定する。3回ずつの跳躍でフォームをチェックする。 中長距離 ウォーキングおよびL・S・D (Long Slow Distance) の目的と効果について解説する。また、異なるサーフェスでのランニングを行う。</p>	<p>【予習：0.5時間】 ・フィニッシュのイメージを正しく行う。 ・ウォーキングの効果を調べる。 【復習：0.5時間】 ・助走から踏切、着地までのすべてのフォームを安定させるようなイメージを作っておく。前期の学習内容を復習しておく。 ・LSDの効果と注意する点に関してレポートを作成する。</p>
13	山崎一彦、鯉川なつえ、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 跳躍 走幅跳の実習効果の測定をする。 中長距離 中長距離走の総括および実習評価の測定を行う。 (授業方法) 跳躍 記録会形式で計測しフォームをチェックし、改善点を見出すために、指導者からのフィードバックおよび受講者同士のディスカッションを行う。 中長距離 中長距離の単元を振り返りミニテストで理解度を確認する。実技テストでは、中長距離走か長距離走を選択させ実施する。</p>	<p>【予習：0.5時間】 ・受講中、安全に試技ができるようにするため体調管理を万全に行う。 ・実習効果測定に対する準備を行う。 【復習：0.5時間】 ・実践での改善点、修正するための指導方法についてまとめる。 ・中長距離走の総括レポートを作成する。</p>
14	山崎一彦、鯉川なつえ、越川一紀、仲村明、高梨雄太	<p>(授業内容) 本授業で行なった種目についての測定を行う。 (授業方法) 4グループに分類し、授業内で行なった測定よりもさらに記録を伸ばすことを見せる。</p>	<p>【予習：0.5時間】 体調を整え、計測に備えた実技種目について練習をしておく。 【復習：0.5時間】 それぞれ実施した競技種目についての復習をしておく。</p>
		定期試験を実施しない	

授業科目名	【新カリ】水泳		授業形態	実技・クラス分け・単独
英語科目名			開講学期	半期（前期）
対象学年	2	2	単位数	1.0
科目責任者	スポーツ健康科学部教員共通			
科目担当者	武田 剛			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 水泳指導の際に指導内容が体現できるように基礎泳力の向上を図る。授業内容は4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基礎的理論および技術の習得を目指し、4泳法を連続して泳ぐ個人メドレーの練習も行う。さらに水中運動や水中レジスタンストレーニングを体験し、指導ができるようになることを目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。 泳法違反のない正しいフォームを習得する</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 100m個人メドレーで男子は1分50秒以内、女子は2分以内で泳ぐことができる。（実技試験） 泳法違反のない正しいフォームで四泳法を泳ぐことができる。（実技試験） 授業中の実技練習やグループ（ペア）練習に取り組む状況によって受講態度を評価する（平常点）。</p> <p>【成績評価の方法】 実技試験（100m個人メドレー）（70%） 平常点（30%）</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 施設の使用人数制限のため、指定されたクラスを受講すること。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 1回の授業について、3分の2以上の出席時間がない場合は、その回の授業を欠席扱いとする。 準備体操の実施以降からの授業出席の場合は見学となる。 第1回目の授業からプールでの実習を行うため、履修時には水着と水泳帽を準備すること。（学内「啓友会館」のショップで購入可能） < 授業で使用する水着や帽子について > 本授業で使用する水着や帽子（白：色指定）は泳法練習に適したものを着用すること。レジャー用水着での受講は技能練習に支障をきたすため、競泳用（練習用）の着用が推奨される。帽子には苗字をカタカナで大きくはっきりと記入し、授業中にこれを着用する。教員は帽子にて学生の氏名を把握するため、帽子を紛失した場合でも友人等の他人の帽子を着用しないこと。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 試験結果と平常点数は試験の翌週以降に各受講者へフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 水泳指導教本（公益財団法人日本水泳連盟、大修館書店、改訂第二版） 水泳コーチ教本（公益財団法人日本水泳連盟）</p>			
連絡先とオフィスアワー				

<p>【連絡先】 担当：武田 剛 Email: tutakeda@juntendo.ac.jp 【オフィスアワー】 通年授業期間中の木曜日15:00-16:00 場所：1号館5階1507室（水泳研究室） 上記の時間には予約に無しに対応しますが、他の学生との時間調整のためできるだけ前日までにEmailで予約をしてください。質問や相談は予約のあった学生を優先します。</p>			
<p>備考</p> <p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技</p> <p>中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）水泳コーチ1・3 健康・体力づくり財団 健康運動指導士 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	武田	<p>【授業内容】 水泳授業内容の概要、成績評価方法、プール利用上の注意や水泳用具の使用方法を学び、水泳授業の授業形態、水慣れの学習を行う。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 水泳用具の準備をする。</p> <p>（復習：0.5時間） プール使用上の注意を安全面と指導効率にわけてノートにまとめる。</p>
2	武田	<p>【授業内容】 蹴伸び、浮身、呼吸法の練習を行い、水中での重力、浮力、抵抗の理解を深める。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>（復習：1時間） アルキメデスの定理や水中トルク発生原理をノートにまとめる。</p>
3	武田	<p>【授業内容】 クロールのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>（復習：1時間） クロールのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。</p>
4	武田	<p>【授業内容】 クロールの手と足のコーディネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>（復習：1時間） クロール全体練習の実施方法（学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント）をノートにまとめる。</p>
5	武田	<p>【授業内容】 平泳ぎのキック（足の動き）とプル（手の動き）を全体の一斉練習で学習する。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>（復習：1時間） 平泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。</p>

6	武田	<p>【授業内容】 平泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 平泳ぎ全体練習の実施方法(学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント)をノートにまとめる。</p>
7	武田	<p>【授業内容】 背泳ぎのキック(足の動き)とプル(手の動き)を全体の一斉練習で学習する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 背泳ぎのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。</p>
8	武田	<p>【授業内容】 背泳ぎの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 背泳ぎ全体練習の実施方法(学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント)をノートにまとめる。</p>
9	武田	<p>【授業内容】 バタフライのキック(足の動き)とプル(手の動き)を全体の一斉練習で学習する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) バタフライのキックとプルの役割、練習方法の注意点等をノートにまとめる。</p>
10	武田	<p>【授業内容】 バタフライの手と足のコーティネーションと呼吸方法を全体の一斉練習で学習する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) バタフライ全体練習の実施方法(学生、学習者の動線、教師の位置、用具、泳距離、技術のポイント)をノートにまとめる。</p>
11	武田	<p>【授業内容】 プレテストとして100m個人メドレーのタイム計測を行い、現状での到達点を確認する。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) プレテストの結果から本試験にむけた自分の課題と必要な練習方法をノートにまとめる。</p>
12	武田	<p>【授業内容】 水中運動(前、後、横、回旋歩きとジャンピング)と水中レジスタンス運動(5種類)、スタートとターンの練習(潜行を含む)を行い、指導の見本が実施ができるようにする。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 浮力と水の抵抗が運動に負荷に与える影響、各練習方法の注意点をノートにまとめる。</p>
13	武田	<p>【授業内容】 泳技能別ノペア練習。泳力の高い学生と苦手な学生でペアリングを行い、マンツーマン指導を実施する。苦手な学生の弱点克服を行う。 【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(復習：1時間) 教える側は指導したポイントのまとめと自らの指導方法に対する自己評価と反省をノートにまとめる。教わる側は指導してもらった内容と自分自身の泳技能の課題をノートにまとめる。</p>

14	武田	<p>【授業内容】 後期本試験の100m個人メドレーのタイム測定を行う。</p> <p>【授業方法】 プールにて実施する。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>プレテストやペア練習でわかった課題を各自練習してくる。</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>試験の結果を踏まえて授業全てのノートを見直し、加筆や修正事項の有無を確認し、ノート内容の充実を図る。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】器械運動		授業形態	実技・クラス分け・複数
英語科目名			開講学期	半期（前期または後期）
対象学年	1	1	単位数	1.0
科目責任者	原田 睦巳			
科目担当者	原田 睦巳 富田 洋之 新竹 優子			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 器械運動における、初級程度の技から中級程度の技を体系的に習得するとともに、段階的指導の学習や幫助の体験を通じて指導法に関する知識を身に付けることをねらいとする。また、安全面の配慮、基礎的な知識の発展や実施、正しい基礎的な知識と運動構造の理解を深める。さらに本授業では、スポーツ健康科学を中心とした教養や知識、運動構造の情報伝達が多く必要とされるため、コミュニケーション力を養いスポーツ医科学とコーチング科学を中心としたスポーツ科学についての知識と技能と教養の育成を目指す。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等の関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 本授業において課題となる技は以下のとおりである。 マット運動：「伸膝前転」「前転とび」「前方宙返り」「前方倒立回転跳び」 とび箱運動：「屈身とび」「前転とび」「前方倒立回転跳び」 鉄棒運動：「足掛け上がり」「け上がり」「後方支持回転」「前方支持回転」「振りとび下り」</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】 各種目の課題に関して正確に動きを理解し、実施することができるかを評価の基準とする。</p> <p>【成績評価の方法】 「学習態度・取り組む姿勢（40%）、実技テスト（マット・跳び箱・鉄棒）（60%）」</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 各課題の実施時に評価や助言を受講者にフィードバックする。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 器械運動の授業づくり 大修館書店 参考資料とする。授業中に適宜資料を配布する。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当：原田 睦巳 E-mail：mtharada@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 火・水・木・金曜日10：00～12：00 【1号館5階1511体操競技研究室】</p>				
備考				

【学修時間】
 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。1回の授業時間は100分とする。

【その他】
 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）
 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技

中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目
 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目
 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育
 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 前期授業の目標ならびに授業展開について理解する。 マット運動：体の前屈によって回転を得る系統技の段階的練習を行う。（前転・開脚前転・倒立前転を習得する） 鉄棒運動：鉄棒の特性について理解し、体験する。</p> <p>【授業方法】 マット運動：前期授業の目標ならびに授業展開について説明する。 前転・開脚前転・倒立前転の段階指導を行う。 鉄棒運動：鉄棒の特性について解説する。</p>	<p>（予習：0.5時間） マット運動：前転・開脚前転・倒立前転の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>（復習：0.5時間） マット運動：前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：鉄棒の特性について理解しておくこと。</p>
2	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 マット運動：伸膝前転を習得する。 鉄棒運動：支持回転系の技（前方支持回転）の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 マット運動：伸膝前転の段階指導を行う。 鉄棒運動：支持回転系の技（前方支持回転）の段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） マット運動：伸膝前転の映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：支持回転系の技の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>（復習：0.5時間） マット運動：前転系の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：支持回転系の技（前方支持回転）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
3	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 マット運動：伸膝前転を習得する。 前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動：伸膝前方支持回転の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 マット運動：伸膝前転の段階指導を行う。 前方倒立回転跳びの導入動作の指導を行う。 鉄棒運動：伸膝前方支持回転の段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） マット運動：前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：伸膝前方支持回転の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>（復習：0.5時間） マット運動：前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：伸膝前方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>

4	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 マット運動：伸膝前転を習得する。 前方倒立回転跳びの練習を行い、習得する。 鉄棒運動：後方支持回転の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 マット運動：伸膝前転の段階指導を行う。 前方倒立回転跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動：後方支持回転の段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) マット運動：前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) マット運動：前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
5	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 マット運動：伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動：伸膝後方支持回転の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 マット運動：伸膝前転、前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動：伸膝後方支持回転の段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) マット運動：伸膝前転、前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：伸膝後方支持回転の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) マット運動：伸膝前転、前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：伸膝後方支持回転についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
6	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：きり返し系統技の練習を行う。 開脚跳び・かかえ込み跳びを習得する。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：きり返し系統技の練習を行う。 開脚跳び・かかえ込み跳びの段階的指導を行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) とび箱運動：開脚跳び・かかえ込み跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（足かけ上がり）の映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) とび箱運動：開脚跳び・かかえ込み跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：足かけ上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>

7	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：きり返し系統技の練習を行う。 屈身とび・大屈身とびを習得する。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：きり返し系統技の練習を行う。 屈身とび・大屈身とびの段階的指導を行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） とび箱運動：屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：け上がりの映像を閲覧しておくこと。 （復習：0.5時間） とび箱運動：屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
8	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：屈身とびのテストを行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：屈身とびのテストを行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） とび箱運動：屈身とび・大屈身とびの映像を閲覧しておくこと 鉄棒運動：け上がりの映像を閲覧しておくこと。 （復習：0.5時間） とび箱運動：屈身とび・大屈身とびの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
9	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：回転系技群（頭はね跳び）の練習を行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の練習を行う。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：回転系技群（頭はね跳び）の段階的指導を行う。 鉄棒運動：懸垂前振りからの前方回転へのきり返しを伴う技群（け上がり）の段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） とび箱運動：頭はね跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：け上がりの映像を閲覧しておくこと。 （復習：0.5時間） とび箱運動：頭はね跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：け上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
10	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：回転系技群（前方倒立回転跳び）の練習を行う。 鉄棒運動：振りとび下りの練習を行う。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：回転系技群（前方倒立回転跳び）の段階的指導を行う。 鉄棒運動：振りとび下りの段階的指導を行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） とび箱運動：前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと。 鉄棒運動：振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。 （復習：0.5時間） とび箱運動：前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：振りとび下りについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>

11	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 とび箱運動：前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動：け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施する。</p> <p>【授業方法】 とび箱運動：前方倒立回転跳びのテストを行う。 鉄棒運動：け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) とび箱運動：前方倒立回転跳びの映像を閲覧しておくこと 鉄棒運動：振りとび下りの映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) とび箱運動：前方倒立回転跳びの指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 鉄棒運動：け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。</p>
12	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 鉄棒運動：鉄棒運動のテストを行う。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方について理解し、実践する。 平均台：体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）を習得する。</p> <p>【授業方法】 鉄棒運動：鉄棒運動のテストを行う。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方についての説明および実践を行う。 平均台：体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）の段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) 鉄棒運動：鉄棒運動の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方について映像を閲覧しておくこと。 平均台：体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）について映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) 鉄棒運動：け上がり、前方支持回転、後方支持回転、振りとび下りの連続して実施するための注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 平均台：体操系の歩走技（前方歩・後方歩・ツーステップ）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>
13	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）を習得する。 長なわとび：8の字とび・0字とびを実践する。 平均台：体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）を習得する。</p> <p>【授業方法】 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 長なわとび：8の字とび・0字とびの指導を行う。 平均台：体操系の跳躍技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）の段階的指導を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間) 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技（ほん転逆上がり・け上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび：長なわとびの8の字とび・0字とびについて映像を閲覧しておくこと。 平均台：体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）について映像を閲覧しておくこと。</p> <p>(復習：0.5時間) 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 平均台：体操系の技（かかえ込み跳び・片足踏み切り跳び上がり・跳び下り）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。</p>

14	原田 富田 新竹	<p>【授業内容】 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の練習を行う。 長なわとび：ダブルダッチを実践する。 平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）を習得する。</p> <p>【授業方法】 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技の段階的指導を行う。 長なわとび：ダブルダッチの指導を行う。 平均台 バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）の段階的指導を行う。</p> <p>定期試験を実施しない。</p>	<p>（予習：0.5時間） 鉄棒運動：高鉄棒における上がり技（後ろ振り上がり）の映像を閲覧しておくこと。 長なわとび： ダブルダッチについて映像を閲覧しておくこと。 平均台：バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）について映像を閲覧しておくこと。 （復習：1.5時間） 鉄棒運動：高鉄棒における後ろ振り上がりについての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 長なわとび：長なわとびの基本のとび方についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 平均台：バランス系の技（片足水平バランス・片足ターン）についての指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解を深める。 授業全体を通して、各技の指導方法および実施の際の注意点を復習し、理解する。</p>
----	----------------	---	--

授業科目名	【新カリ】球技(ゴール型)		授業形態	実技・クラス分け・単独
英語科目名			開講学期	半期(前期または後期)
対象学年	1	1	単位数	1.0
科目責任者	スポーツ健康科学部教員共通			
科目担当者	堀池 巧			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、実技の授業形態で行われる。「サッカー」、「バスケットボール」、「ハンドボール」などのゴール型の球技種目の中から1種目を選択し、その種目の実践を通して技術・戦術・知識・審判法等を習得する。そして、それらをゲームの場面で発揮できる能力や指導方法を身に付ける。また、チーム内で作戦を立ててゲームが展開できるようにする。</p> <p>この授業では「自身ができる」と「他者にできるようにさせる」ことを柱に、サッカーにおける基礎技術の習得と向上、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術を理解し、仲間とともに競技をする楽しさを学び、さらには、サッカーの基本原則や競技規則について理解を深めます。また、サッカーにおけるテーマごとの様々なトレーニングメニューを体験しサッカー理解を高める。またグループごとにトレーニングをプランニングし中学・高校の授業で指導実践できる技術を身につける。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. サッカーにおける基礎技術を習得しプレーすることができる。 2. サッカーの原理原則および楽しさを理解しプレーすることができる。 3. サッカーの競技規則に基づいてプレーおよび審判をすることができる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. サッカーにおけるボールをコントロールする・パスする・ドリブルするといった基本技術、個人戦術を正確に行うことができるかゲームの中で評価する。 2. サッカー知識として、サッカーの競技規則、審判法等を理解しているか定期試験で評価する。</p> <p>【成績評価の方法】 実技レベルおよび知識理解：50%、授業内試験：30%、授業態度および取り組む姿勢：20%の割合で評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 出来る限り怪我等で見学することなく実技の授業に参加すること。</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】 適切な服装(スネ当てを含む)とシューズの準備をすること。 【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 授業の中でキーファクター、ポイント等を提示し、解説する。 【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(平成30年7月 文部科学省) 「Laws of the Game サッカー競技規則」JFA発行 授業中に適宜資料を配布する。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：堀池 巧 E-mail：t-horiike@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：火曜日・10時～12時、木曜日・10時～12時、 場所：1号館5階 サッカー研究室 1529室</p>			
備考				

【学修時間】
 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。

[実務経験のある教員による授業]
 サッカー日本代表及びJリーグでの競技経験があり、S級コーチライセンスの指導資格を保有する教員が実技を指導する。

【その他】
 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）
 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技
 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。
 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	堀池	【授業内容】 ガイダンス：サッカーの授業に対する理解を深める。 【授業方法】 授業の進め方、諸注意を説明する。	（予習：0.5時間） シラバスを確認に授業について理解・把握をする （復習：0.5時間） サッカー競技の特性について理解を深める。
2	堀池	【授業内容】 サッカーのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングについて理解を深める。 【授業方法】 どのようなボールフィーリング・コーディネーショントレーニングがあるのか解説する。	（予習：0.5時間） ボールフィーリング・コーディネーショントレーニングとは何か調べる。 （復習：0.5時間） サッカーのためのボールフィーリング・コーディネーショントレーニングを1つ開発する。
3	堀池	【授業内容】 パス&コントロールのテクニックについて理解を深める。 【授業方法】 対面パスを中心に両足を使いながらのドリルを行う。	（予習：0.5時間） 有効な視野の確保、ボールの置き所とはどういうことが調べる。 （復習：0.5時間） 両足で、なおかつ正確性を追求しながらパスとコントロールができていないか復習を行う。
4	堀池	【授業内容】 ドリブル・ヘディングについて理解を深める。 【授業方法】 様々な部位を使ったドリブル、ドリブルターン、1対1のドリブル等を行う。ヘディングの基本姿勢について解説する。	（予習：0.5時間） ドリブル・ヘディングについて調べる。 （復習：0.5時間） 周りを見ながら、スピードの変化を加えながら、フェイントを入れながらドリブルできるか復習する。 ヘディングの際のボールを当てる場所を確認する。
5	堀池	【授業内容】 ゴールキーピングとシュートの基本について理解を深める。 （授業方法） ゴールキーパー育成のための様々な基本動作を体験し、実際にシュートを受ける。	（予習：0.5時間） 現代のゴールキーパーに求められることは何か調べる。 （復習：0.5時間） ゴールキーパーの基本動作について正しくできるかどうか復習する。

6	堀池	<p>【授業内容】 コンビネーション(クロスを含む)からのシュートについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 コンビネーションからのドリルシュートを行い、クロスボールはなぜ有効なのか解説する。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>クロスからの攻撃はなぜ有効なのか調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>積極的にシュートを狙う姿勢を常に持ちながら、GKとの駆け引きや、正確に狙うことができるか復習する。</p>
7	堀池	<p>【授業内容】 ボールを奪う：守備の個人戦術について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 守備の個人戦術について解説し、ドリルトレーニングを行う。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>守備におけるチャレンジの優先順位、ポジションの原則について調べてくる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>守備における個人戦術を理解し、プレッシャーをかけ、奪うチャンスを逃さずボールが奪えるか復習する。</p>
8	堀池	<p>【授業内容】 ポゼッションについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 ボールを失わないためのテクニクドリルを行い、解説する</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>ポゼッションとはどういうことか調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>相手選手にボールを奪われることなく、判断の変化に対応しながらポジションを変化させ、ボールを奪われないか復習する。</p>
9	堀池	<p>【授業内容】 攻守におけるオフ・ザ・ボールの動きについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 オフ・ザ・ボールの動きについて解説をする。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>攻守におけるオフ・ザ・ボールとはどういうことか調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>ゲーム中、オフ・ザ・ボールの状況を理解した上でプレーできているかどうか復習する。</p>
10	堀池	<p>【授業内容】 突破：ゴールを奪うために必要な突破の動きについて理解を深める。</p> <p>(授業方法) 突破の動きについて解説し、様々なトレーニングを行う。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>サッカーにおける突破の動きについて調べてくること。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>相手との間合い、フェイント、スピードの変化、方向の変化を加えながら突破ができているか復習する。</p>
11	堀池	<p>【授業内容】 ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>システムの変遷と各ポジションの役割について調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>システムとポジションについて理解すると共に、映像を通して実際のゲームでどのようになっているか復習する。</p>

12	堀池	<p>【授業内容】 セットプレー：現代サッカーにおけるセットプレーの重要性について理解を深める。</p> <p>【授業方法】 セットプレーゲームを行い、解説をする。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>セットプレーはなぜ攻撃側に有利なのか調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>得点に直接結びつくようなセットプレーができるかどうか復習する。</p>
13	堀池	<p>【授業内容】 授業内試験：競技規則 講義：ルールと審判法、競技規則について。</p> <p>【授業方法】 授業内試験後に競技規則について説明し、知識をより深める。</p>	<p>(予習：1時間)</p> <p>サッカーにおける競技規則について理解を深める。</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>サッカーのルールについて、「サッカーの競技規則」をWeb上で閲覧し復習する。</p>
14	堀池	<p>【授業内容】 ゲーム：11対11の対抗戦で審判法、システム、ポジションについて理解を深める。</p> <p>【授業方法】 システム、ポジションを自分たちで決めさせゲームを行う。またレフェリーをやり、審判法を身につけさせる。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>チームごとに主導権を握るサッカーをするためには何が必要かミーティングを行う。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>チームごとに試合の分析を行い、課題解決のために何が必要か授業を振り返りながら復習を行う。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】球技(ネット型)		授業形態	実技・クラス分け・単独
英語科目名			開講学期	半期(前期または後期)
対象学年	2	2	単位数	1.0
科目責任者	スポーツ健康科学部教員共通			
科目担当者	高橋 徹			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、実技の授業形態で行われる。「バレーボール」、「テニス」、「卓球」など、コート上でネットを挟んで相対するネット型の球技種目の中から1種目を選択し、その種目の実践を通して、身体や用具を操作してボールを狙った場所に返球する基本理論や技術を学修する。そして、巧みなボールや用具の操作と、適切な位置取りなどの移動によって、相手と攻防を展開しゲームを楽しむとともに、戦術、ルール、審判法等について理解し、指導できる力を養う。 テニスの技能を習得し、その指導法と基礎理論について理解を深める。 テニスの歴史・運動特性等の基礎理論を理解し、グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人応用技能とその指導方法を学ぶ。ルールを理解するとともに対人応用技能を活用した戦略・戦術についても学習し、公式ルールに則った試合を出来るようにする。技術の習得には映像などを活用した技術確認を行い、テニス技能の段階的指導法も身につくようにする。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. グランドストロークやサービスなどの基本動作やラリーなどの対人的技術が習得できる。 2. ルール、戦略・戦術を理解し対人応用技能に発展させ、試合が行えるようになる。 3. 教育現場における安全を考慮したテニス指導方法について理解できる。 4. テニスの段階的指導方法について理解でき</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. テニスの歴史や運動特性、基本動作や技術、戦術を理解している。(平常点・定期試験・実技試験) 2. テニスの基本動作、対人ラリーについてその技術を修得している。(平常点・定期試験・実技試験) 3. テニスのルールや技術、安全管理に関する指導方法を理解している。(平常点・定期試験・実技試験) 4. 授業中の発言や予習・復習の取り組み状況によって受講態度を評価する。(平常点、課題レポート)</p> <p>【成績評価の方法】 平常点(10%)、課題レポート(10%)、定期試験(30%)、実技試験(50%)を総合して評価する。</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 特になし</p> <p>【履修上の注意(科目独自のルール)】 授業内で使用するラケット、ボール等は各自の用具を特別に用意する必要はないが、テニスに適した服装・シューズを必ず着用すること。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 授業中に課す実技課題、定期試験共に授業内で解説する。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(平成30年7月 文部科学省) 授業中に、適宜、資料を配布。</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当：高橋 徹 E-mail: to-takahashi@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 随時、Eメールで質問を受ける。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	高橋	<p>【授業内容】 ガイダンス、テニスの特性</p> <p>【授業方法】 授業目的及び概要の解説、シラバスの解説、評価方法と授業の進め方等について説明をする。</p>	<p>（予習：0.5時間） テニスの歴史や用具について具体的に調べておく。</p> <p>（復習：0.5時間） 紹介された書籍やホームページ・映像等を閲覧する。</p>
2	高橋	<p>【授業内容】 グランドストローク（フォア、バック）の基本動作を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>（予習：0.5時間） プロテニスプレイヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。</p> <p>（復習：0.5時間） グランドストロークの基本動作のポイントを整理する。</p>
3	高橋	<p>【授業内容】 ボレー（フォア、バック）の基本動作を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>（予習：0.5時間） プロテニスプレイヤーのボレーの映像を見て確認しておく。</p> <p>（復習：0.5時間） ボレーの基本動作のポイントを整理する。</p>
4	高橋	<p>【授業内容】 スマッシュの基本動作を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>（予習：0.5時間） プロテニスプレイヤーのスマッシュの映像を見て確認しておく。</p> <p>（復習：0.5時間） スマッシュの基本動作のポイントを整理する。</p>
5	高橋	<p>【授業内容】 サービス・リターンの基本動作を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>（予習：0.5時間） プロテニスプレイヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。</p> <p>（復習：0.5時間） サービス・リターンの基本動作のポイントを整理する。</p>
6	高橋	<p>【授業内容】 グランドストロークの基本動作の対人技能への応用。グランドストロークの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>（予習：0.5時間） 試合におけるプロテニスプレイヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。</p> <p>（復習：0.5時間） グランドストロークのボールコントロール方法のポイントを整理する。</p>

7	高橋	<p>【授業内容】 ボレーの基本動作の対人技能への応用。ボレーの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>試合におけるプロテニスプレーヤーのボレーの映像を見て確認しておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>ボレーのボールコントロール方法のポイントを整理する。</p>
8	高橋	<p>【授業内容】 スマッシュの基本動作の対人技能への応用。スマッシュの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>試合におけるプロテニスプレーヤーのグランドストロークの映像を見て確認しておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>スマッシュのボールコントロール方法のポイントを整理する。</p>
9	高橋	<p>【授業内容】 サービス・リターンの基本動作の対人技能への応用。サービス・リターンの速度、回転量などのボールコントロール方法を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>試合におけるプロテニスプレーヤーのサービス・リターンの映像を見て確認しておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>サービス・リターンのボールコントロール方法のポイントを整理する。</p>
10	高橋	<p>【授業内容】 公式試合のルールとマナー、テニスコートサイズを理解する。</p> <p>【授業方法】 プリントによる講義、簡易試合</p>	<p>(予習：1.5時間)</p> <p>インターネットや書籍等により、公式試合のルールやマナー、コートサイズについて調べておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>ポイントの数え方や、試合の進め方を整理する。</p>
11	高橋	<p>【授業内容】 シングルスにおける戦術。シングルスにおける基本的戦術を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>シングルの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>シングルのポイントパターンを整理する。</p>
12	高橋	<p>【授業内容】 ダブルスにおけるベースラインプレーと戦術。ダブルスにおける基本的戦術を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 球出し練習、ラリー、簡易試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>ダブルスの試合におけるプロテニスプレーヤーのポイントパターンの映像を見て確認しておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>ダブルスのポイントパターンを整理する。</p>

13	高橋	<p>【授業内容】 シングルの試合。公式ルールに則り、シングルの試合をする。</p> <p>【授業方法】 ウォーミングアップ、試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>プロテニスプレイヤーのシングルの試合の映像を見ておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>プロテニスプレイヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。</p>
14	高橋	<p>【授業内容】 ダブルスの試合。公式ルールに則り、ダブルスの試合をする。</p> <p>【授業方法】 ウォーミングアップ、試合</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>プロテニスプレイヤーのダブルスの試合の映像を見ておく。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>プロテニスプレイヤーの戦術をもとに、映像等を用い授業内での自己の試合の分析をする。</p>
		定期試験	

授業科目名	【新カリ】球技(ベースボール型)		授業形態	実技・クラス分け・単独
英語科目名			開講学期	半期(前期または後期)
対象学年	2	2	単位数	1.0
科目責任者	スポーツ健康科学部教員共通			
科目担当者	吉村 雅文 菅波 盛雄 大田 穂			
授業概要				
<p>【授業全体の内容】 ベースボール型に分類されるソフトボール授業では、実践を通して、ソフトボールの競技特性や技術構造を理解し、捕球、送球、投球、打撃、走塁等々の基本的な技能を習得し、段階的に技術向上を目指し、ソフトボールの実践指導方法を身につけます。 また、ルールや戦術、安全面への配慮など、指導の実践の際に必要な知識、留意点等も学習し、正しく安全にしかも楽しく指導できる力を身につけます。</p> <p>【授業の位置づけ(学位授与方針に定められている知識・能力等との関連)】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 中学校や高等学校の体育教員または地域スポーツ指導者として、ソフトボールを指導するために必要な基本的技術を身につけることができます。また、安全面への配慮、指導の留意点等についても学習し、指導できる力を身につけることができます。</p>				
成績評価				
<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソフトボールに必要な基本的技術をゲーム中に発揮できる。(スキルテスト) 2. ソフトボール競技のルールや戦術について理解し説明できる。(ミニテスト) 3. ソフトボールの実践指導に必要な知識、安全面の配慮、指導の留意点等々を理解できる。(レポート) 4. 授業中の発言や取り組み状況によって受講態度を評価する。(平常点) <p>【成績評価の方法】 スキルテスト(50%)、ミニテスト(20%)、レポート(20%)、平常点(10%)を総合して評価する。</p>				
履修における留意事項				
<p>【履修要件】 指定されたクラスを受講してください。受講人数が50名を越える状況が出た場合は、安全面を配慮し履修制限を行う場合があります。</p> <p>【課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法】 ミニテストやレポート課題提出後、試合実施後に、授業内でポイント等をフィードバックします。</p> <p>【テキスト・参考書等】 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 保健体育編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編(平成30年7月 文部科学省) 必要なテキスト・参考書・資料に関しては、授業中に指示適宜配布します。</p>				
連絡先とオフィスアワー				
<p>【連絡先】 担当：吉村 雅文 E-mail：msyoshi@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 日時：月曜日および金曜日 12:00～12:50 場所：1号館5階、1528室 上記の時間帯は予約がなくても対応しますが、予約があった学生を優先します。できる限り、前日までにE-mailで予約するように心がけてください。</p>				
備考				

<p>【学習時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成します。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ）
1	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 ガイダンス</p> <p>【授業方法】 授業目的及び授業概要について解説、評価方法と授業の進め方・道具準備について説明する。</p>	<p>（復習：1時間） ソフトボールの歴史について調べる。</p>
2	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 投球の基本的技術 オーバーハンドスローを習得する。</p> <p>【授業方法】 デモンストレーションを参考に、オーバーハンドスローの一連の動作、ボールの握り方、構えについて解説し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ソフトボールのオーバーハンドスロー映像を見て、投球の技術習得に役立てる。</p> <p>（復習：0.5時間） オーバーハンドスローの技術習得についてまとめる。</p>
3	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 キャッチボールの基本的技術 グラブ操作</p> <p>【授業方法】 色んな状況でのキャッチボールを経験し、より実践的な身体の使い方・グラブ操作について解説し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ソフトボールのグラブ操作映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>（復習：0.5時間） グラブ操作の技術習得についてまとめる。</p>
4	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 守備の基本的技術 ゴロ捕球</p> <p>【授業方法】 ボールが落ちてくる、ボールが地面から上がってくるタイミングで捕球することが簡単で安全であることを解説し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ソフトボールのゴロ捕球映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>（復習：0.5時間） ゴロ捕球の技術習得についてまとめる。</p>
5	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 守備の基本的技術 フライ捕球</p> <p>【授業方法】 落下点に素早く入ることの重要性を解説し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ソフトボールのフライ捕球映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>（復習：0.5時間） フライ捕球の技術習得についてまとめる。</p>
6	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 打撃の基本的技術 ティーバッティング・ノック</p> <p>【授業方法】 様々なティーバッティングの練習方法を解説し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ソフトボールのティーバッティング・ノック映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>（復習：0.5時間） ティーバッティング・ノックの技術習得についてまとめる。</p>

7	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 打撃の基本的技術 トスバッティング・送りバント</p> <p>【授業方法】 トスバッティング・送りバントの練習方法およびコツを解説し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールのトスバッティング・送りバント映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>(復習：0.5時間) トスバッティング・送りバントの技術習得についてまとめる。</p>
8	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 投手の基本的技術 ウインドミル投法</p> <p>【授業方法】 ウインドミル投法は前に足を踏み出しながら体の前、頭、体の後ろと腕を振りながらに振り太もものあたりからボールをリリースする基本を解説し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールのウインドミル投法映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>(復習：0.5時間) ウインドミル投法の技術習得についてまとめる。</p>
9	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 走塁の基本的技術 ベースランニング</p> <p>【授業方法】 ベースランニングの基本を解説し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールのベースランニング映像を見て、技術習得に役立てる。</p> <p>(復習：0.5時間) ベースランニングの技術習得についてまとめる。</p>
10	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 チームでの守備 併殺プレー・シートノック</p> <p>【授業方法】 併殺プレーの中心となるセカンドとショート動き方を解説し実践する。また、守備練習の定番であるシートノックについて解説し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールの併殺プレー・シートノック映像を見て、守備技術習得に役立てる。</p> <p>(復習：0.5時間) 併殺プレー・シートノックの技術習得についてまとめる。</p>
11	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 ソフトボールの基本的ルールおよび安全面への配慮</p> <p>【授業方法】 ソフトボールのルールについて解説するとともに、安全を配慮した楽しい授業を展開するための解説をおこない実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールのルールについて調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) ソフトボールのルール、指導の際の安全面配慮に関して研究する。</p>
12	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 ソフトボールの基本的な技術指導(指導の難しさ的心得)</p> <p>【授業方法】 安全を配慮した楽しい授業を展開するための解説を行い実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールの指導方法について調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) ソフトボールの指導方法に関して研究する。</p>
13	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 ミニ試合</p> <p>【授業方法】 実際の試合を行う前の準備となるミニ試合に関して解説を行い実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ソフトボールのゲーム映像を見て、試合イメージを掴む。</p> <p>(復習：0.5時間) ソフトボールの戦術に関して研究する。</p>

14	吉村 菅波 大田	<p>【授業内容】 試合</p> <p>【授業方法】 ルールを理解し、安全を配慮した楽しい試合を行う為の運営方法も含めて解説し実践する。</p> <p>定期試験</p>	<p>(予習：1時間) ソフトボールのゲーム映像を見て、試合イメージを掴む。</p> <p>(復習：1時間) ソフトボールの試合運営に関して研究する。</p>
----	----------------	--	---

授業科目名	【新カリ】ダンス		授業形態	実技
英語科目名			開講学期	半期
対象学年	1		単位数	1.0
科目責任者	中村 恭子			
科目担当者				
授業概要				
<p>[授業全体の内容] 中学・高校のダンス領域の内容である創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンスの実技と指導法を学習する。即興創作やグループ創作を通じて発想力、表現力、協調性、課題解決能力を高め、ダンスの美的表現原理と創作技法の基礎知識と技能を身に付ける。中学・高校の保健体育教員としての視点で授業を捉え、ダンス学習指導法についての理解を深める。 また、健康・体力づくりの運動であるエアロビックダンスの理論と実技を学び、指導の基本技術を身に付ける。</p> <p>[授業の位置づけ（学位授与方針に定められている知識・能力等との関連）] この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>[授業の到達目標] 上記「授業の位置づけ」に対応した到達目標を設定してください。 1．多様なダンスを学習してリズム感や身体操作能力、表現力を高め、自分の発想で表したい動きを見つけ、全身を大きく使いメリハリを付けて踊ることができる。 2．動きとイメージやリズムの関係、動きのアレンジや動きを強調する表現方法、群の構成や空間の使い方、作品の展開や構成法について理解し、それらを応用してオリジナルの作品を創作・発表できる。 3．グループ創作活動や発表・鑑賞を通して課題解決能力、対人調整力、自他の個性を認め合う態度を身に付ける。 4．ダンス領域の各種ダンスの学習内容と学習指導法について理解し、良い動きを見分ける力と指導力を身に付ける。</p>				
成績評価				
<p>[成績評価の基準] 1．精一杯大きく、メリハリをつけて、なりきって踊っているか。独創的な動きや表現が工夫できるか。 2．自他の動きや表現の良し悪しを判断し、観賞・評価できるか。 3．ダンスの用語や美的表現原理を理解し、授業の進め方や効果的な指導方法について記述できるか。 4．積極的に取り組み、仲間と協力して主体的に活動しているか。 5．エアロビックダンスの基本理論を理解し、実技指導（対面指導の示範、キューイング）ができるか。</p> <p>[成績評価の方法] 実技力（表現力・創作力）60%、鑑賞評価力10%、知識・理解（学習ノート）20%、取り組む姿勢10%</p>				
履修における留意事項				

[履修要件]

中高保健体育科教員免許取得のための必修科目である本科目は指導力養成を目標の一つとしているため、指導者としての心構えをもって受講すること。生徒の立場で実技を体験しながらも指導者目線で授業を分析して欲しい。復習として授業内容を記録する学習ノートの記載においては指導者の立場で記述し、学習内容と方法、指導の要点をまとめて復習すること。

[履修上の注意（科目独自のルール）]

遅刻・早退は30分以内とし、3回で1回分の欠席に換算する。試合等の欠席は事情を考慮はするが、欠席は欠席としてカウントするので注意すること。なお、ケガや故障等で全力全身での実技ができない場合でも、「今できる範囲で」授業に参加できるのがダンスの特徴でもあるので、できる範囲で参加すること。

[課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法]

平常時の実技の出来栄については、即時、口頭でフィードバックする。

3回の実技試験では評価の観点（精一杯大きく動いているか・メリハリをつけて踊っているか・独創的な動きの工夫があるか・群や空間の工夫ができていないか・なりきって踊っているか）の各項目について相互評価の結果を集計して示す。

知識・理解については学習ノートを毎回提出させ、記述内容について具体的にコメントを記入して返却する。

[テキスト・参考書等]

テキスト：『明日からトライ！ダンスの授業』

連絡先とオフィスアワー

[連絡先]

担当：中村恭子

E-mail：k-nakamu [at] juntendo.ac.jp

[at] を@に変更してください。

[オフィスアワー]

日時：前期：火曜日10:30-14:00、木曜日10:30-14:00、 後期：月曜日10:30-15:00、金曜日15:00-17:00

場所：1号館5階 1501号室

ただし、上記の時間帯においても会議等で不在の場合もあるので、前日までにE-mail等で確認・予約すること。

備考

[学修時間]

この授業は、講義の授業形態による1単位の科目であり、授業時間30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容をもって構成する。

[その他]

中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目

科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）

施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技

この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。

JSP0（日本スポーツ協会）エアロビクコーチ1

健康・体力づくり財団 健康運動指導士

JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー

1クラスの受講人数が60人を超える場合は、「中高保健体育科教員免許」または「健康運動指導士」資格取得のための履修者を優先し、残りを抽選とする場合もある。

授業計画 【授業内容と準備学修等】

授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（ポ-
------	----	---------------	------------------------

1	中村恭子	<p>[授業内容] ガイダンス：授業内容と学び方、ダンスの特性と種類、先輩作品ビデオ鑑賞、ダンス・ウォームアップの特徴と効果 外国のフォークダンス オクラホマ・ミキサー</p> <p>[授業方法] ダンスの特性や種類について、グループで討議し、意見交換する。 心と体をほぐし技能を高めるダンス・ウォームアップを体験し、その目的と効果について分析する。 オクラホマ・ミキサーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(復習：1時間) ダンス学習ノートを作り、ダンスの特性や種類を整理する。 オクラホマ・ミキサーの由来と踊りの特徴を調べる。</p>
2	中村恭子	<p>[授業内容] 現代的なリズムのダンス サンバ 「サンバのリズムでお祭りパレード」 現代的なリズムのダンス?ヒップホップ「足じゃんけんからヒップホップへ」 外国のフォークダンス ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー</p> <p>[授業方法] リズムに乗って即興的に踊り、多様な動きを工夫する。仲間の動きを即時に真似して踊り続ける。 足じゃんけんの動きをもとに簡単な動きの組み合わせを工夫する。仲間と教えあい続けて踊る。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ヒップホップ文化について調べる。 ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブーの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>(復習：0.5時間) 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>

3	中村恭子	<p>〔授業内容〕 現代的なリズムのダンス ロック「ロックのリズムで動く-止まる」 現代的なリズムのダンス 床の動き「床を使ってブレイクダンスみたいに」 外国のフォークダンス ドードレブスカ・ポルカ</p> <p>〔授業方法〕 見つけた動きのリズムを変化させ、メリハリをつけて踊る。床を使った動きや回転技を工夫し短いフレーズを作る。バトル形式で他チームと踊り合う。ドードレブスカ・ポルカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ヒップホップダンスにおけるダンスバトルの由来と特徴を調べる。 ドードレブスカ・ポルカの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>（復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
4	中村恭子	<p>〔授業内容〕 現代的なリズムのダンス グループ作品創作</p> <p>〔授業方法〕 課題曲の中から好きな曲を選び、選択曲グループ内で分担して動きを創作する。動きを教え合い、グループで1曲通して踊れるように仕上げる。</p>	<p>（復習：1時間） グループで作った動きを練習し覚える。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
5	中村恭子	<p>〔授業内容〕 現代的なリズムのダンス 作品発表会</p> <p>〔授業方法〕 修正と踊り込みで完成度を高め、発表する。 他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。</p>	<p>（予習：0.5時間） 作品のイメージに合った衣装を工夫し準備する。</p> <p>〔復習：0.5時間〕 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
6	中村恭子	<p>〔授業内容〕 創作ダンス 物〔小道具〕を使って「しんぶんし」</p> <p>日本の民踊 よさこい鳴子踊り</p> <p>〔授業方法〕 即興で新聞紙の動きを模倣し、多様な体の使い方を工夫してひと流れの動きを作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。 よさこい鳴子踊りの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>（予習：0.5時間） よさこい鳴子踊りの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>（復習：0.5時間） 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「物〔小道具〕を使って」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。</p>

7	中村恭子	<p>[授業内容] 創作ダンス 対極の動きの連続 「走る-止まる」</p> <p>日本の民踊 郡上踊り「げんげんばらばら」</p> <p>[授業方法] メリハリのある「走る-止まる」のひと流れを即興で多様に変化させて踊り、仲間とイメージと動きを共有、ひとまとまりの表現を作り踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。</p> <p>郡上踊り「げんげんばらばら」の踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>郡上踊りの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>(復習 : 0.5時間)</p> <p>本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「対極の動きの連続」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。</p>
8	中村恭子	<p>[授業内容] 創作ダンス 身近な生活と日常動作「スポーツ名場面集～感動の瞬間をもう一度」</p> <p>外国のフォークダンス ハーモニカ</p> <p>[授業方法] 各種スポーツの特徴をとらえて動きをデッサンし、仲間と動きを共有、ひとまとまりの表現を作る。特徴を強調するデフォルメ[変形]の方法を学び、表現を工夫して発表する。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。</p> <p>ハーモニカの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>ハーモニカの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>(復習 : 0.5時間)</p> <p>本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「群[集団]の動き」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。</p>
9	中村恭子	<p>([授業内容] 創作ダンス 多様な感じ・群[集団]の動き「旅立ちの刻」 外国のフォークダンス オスロー・ワルツ</p> <p>[授業方法] 嬉しい、悲しい、流れるような、ごつごつした、などの感じのある動きと、大回り・小回り、高中低の群像、密集・分散などの群の動きを取り入れながら「旅立ちの刻」をテーマに踊る。他グループと見せ合い、良い表現を評価し合う。</p> <p>オスロー・ワルツの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>オスロー・ワルツの由来と踊りの特徴を調べる。</p> <p>(復習 : 0.5時間)</p> <p>本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。学習テーマ「身近な生活と日常動作」のその他の題材の指導例についてテキストを読み、理解を深める。</p>

10	中村恭子	<p>[授業内容] 創作ダンス はこびとストーリー「事件発生」グループ作品創作のグループ分け、デッサン</p> <p>外国のフォークダンス バージニア・リール</p> <p>[授業方法] 作品として表現したい「事件」を選んでグループを作り、表現したいイメージを深め、はこびを考える。各場面での使用曲を決める。グループで場面を分担して中核となる動きをデッサンする。 バージニア・リールの踊り方を理解し、仲間と教えあって習得し交流する。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>バージニア・リールの由来と踊りの特徴を調べる。身近な「事件」のうちダンスで表現できそうな題材を考える。</p> <p>(復習 : 1時間) 分担部分の動きを完成させる。 本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
11	中村恭子	<p>[授業内容] 創作ダンス 「事件発生」グループ作品創作</p> <p>[授業方法] 各場面に相応しい曲を選ぶ。分担した場面の動きを教えあい、群の構成を工夫して作品全体を仕上げる。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>分担部分に相応しい使用曲 [候補曲] を探す。</p> <p>(復習 : 1時間) グループで作った動きや群構成を覚え、スムーズに動けるように練習する。本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
12	中村恭子	<p>[授業内容] 創作ダンス 「事件発生」グループ作品発表会 ビデオ鑑賞会と相互評価</p> <p>[授業方法] 作品を踊り込み、発表する。他グループの作品を鑑賞し、良い点と改善点を評価しあう。</p>	<p>【 (予習 : 0.5時間)</p> <p>作品の使用曲を編集する。相応しい衣装を準備する。</p> <p>(復習 : 0.5時間)</p> <p>本時の学習内容と学習の進め方、指導のポイント、ダンスの美的表現原理について理解したことをノートにまとめる。</p>
13	中村恭子	<p>[授業内容] エアロビックダンスの特性と基本理論 実技指導技術 基本ステップと名称の理解、正確で明確な動作の習得</p> <p>[授業方法] エアロビックダンスの特性、運動強度の設定について学び、目標心拍数の算出方法の演習を行う。指導者の動きを模倣して基本的なプログラムの動きを練習し、ステップ名称と動きの要点を理解する。</p>	<p>(予習 : 0.5時間)</p> <p>エアロビクスについて関連書籍を読む。 エアロビックダンスの基本ステップについて配布資料を読み理解する。</p> <p>(復習 : 0.5時間)</p> <p>エアロビックダンスの運動強度設定と目標心拍数の算出方法についてまとめる。 基本的なプログラムを練習してスムーズに実演できるようにする。</p>

14	中村恭子	<p>[授業内容] エアロビックダンスの指導の要点 実技指導技術 対面指導の示範、キューイング、実技指導実習と相互評価 [授業方法] 基本的なプログラムのルーティンについて交代で模擬指導実習を行い、評価し合う。</p>	<p>(予習 : 0.5時間) 指導者の役割について配布資料を読み理解する。基本ステップの名称を覚える。 (復習 : 0.5時間) 基本的なプログラムの実技指導がスムーズに実演できるように練習する。 模擬指導実習の反省レポート。</p>
15	中村恭子	定期試験を実施	

授業科目名	【新カリ】武道		授業形態	実技・クラス分け・複数
英語科目名			開講学期	半期（前期または後期）
対象学年	1	1	単位数	1.0
科目責任者	スポーツ健康科学部教員共通			
科目担当者	中村 充 佐藤皓也			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、実技の授業形態で行われる。「柔道」、「剣道」のいずれかを選択し、我が国固有の運動文化である武道の運動特性や伝統的な思考について理解を深めるとともにそれらに基づいた技能を修得する。基礎理論を理解しながら、礼法に代表される所作法、基本動作や相手の動きに応じた基本動作、対人的技能を学ぶ。また、それらの技能を駆使して、簡易な攻防ができる能力を身に付ける。授業はグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させる中で、それぞれの指導方法も身に付くようにする。</p> <p>武道の代表的な剣道について、基本的な技能を習得し、指導法と基礎理論についての理解を深める。剣道の歴史的背景から成り立つ、武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。剣道具を着装することより、空間打突から実践に移行し、地稽古や試合稽古へ発展させる。技術の習得にはグループ学習や映像を活用した技術確認を行い、対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本固有の武道の歴史を理解し、相互尊重の精神を身につける。 2. 正確な基本動作を習得し、対人的技能を習得する。 3. 対人応用技能に発展させ、簡易試合を楽 			
成績評価	<p>【成績評価の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 相手を尊重した所作法や取り組みができる。（平常点） 2. 基本動作や対人的技能が身についた。（授業内試験） 3. 剣道のルールに則った地稽古ならびに試合ができる。（平常点） 4. 学校指導現場で生かせる練習法について理解する。（平常点、レポート） <p>【成績評価の方法】 授業に取り組む姿勢・参画度 50%、課題達成度 40%、知識の獲得度 10%</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 運動に適した服装を各自が準備する。なお、安全上の問題から受講希望者数が50名を超えた場合は、抽選を行う。</p> <p>【履修上の注意（科目独自のルール）】 共有する道具の扱いを丁寧にし、授業内で求められる所作や態度を守ること。</p> <p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートについては返却時、課題試験については実施後に、授業内でポイント等をフィードバックする。</p> <p>【テキスト・参考書】 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編（平成30年7月 文部科学省） 剣道：剣道指導要領（全日本剣道連盟）・剣道授業の展開（全日本剣道連盟）</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先：オフィスアワー】 中村 充 （1号館5階 1505号室）：木曜日 10:00～12:00、14:30～16:00 E-mail：mtnakamu@juntendo.ac.jp</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、授業30時間と準備学習15時間の計45時間の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための必修科目 科目：教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：教科に関する専門的事項 体育実技 この授業科目は、中・高保健体育一種免許の取得に必要な科目のうち、「教科及び教科の指導法に関する科目（保健体育）」における必修科目として位置づけられています。 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JPSU（全国体育スポーツ系大学協議会）スポーツトレーナー</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポート）
1	中村 佐藤	<p>【授業内容】 ガイダンス、基本動作の確認</p> <p>【授業方法】 授業の進め方について説明する。授業に必要な用具を説明する。基本動作について確認する。</p>	<p>（予習：0.5時間） 授業の目的、内容についてシラバスを読む。</p> <p>（復習：0.5時間） 所作法、基本動作について整理する。</p>
2	中村 佐藤	<p>【授業内容】 剣道小史を学習する。礼法・所作法とともに、木刀の構え方、足さばきを身につける。</p> <p>【授業方法】 剣道の成り立ち、礼法・所作法を解説する。木刀を用いた遊びを行い、剣道を楽しむとともに、木刀の構え方、足さばきを説明し実践する。</p>	<p>（予習：1時間） 剣道の理念、剣道修練の心構えについて調べる。</p> <p>（復習：0.5時間） 剣道の成り立ちを整理する。剣道の所作法を整理する。</p>
3	中村 佐藤	<p>【授業内容】 仕掛けていく技を理解する。面・小手・胴・突きを空間打突、竹刀打ちを実践する。</p> <p>【授業方法】 仕掛け技の分類を説明する。二人組で互いに打突部位を確認し、仕掛け手と受け手（元立ち）を交替しながら空間打突と竹刀打ちを行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） 仕掛け技の分類を調べる。</p> <p>（復習：0.5時間） 元立ちの役割について整理する。</p>
4	中村 佐藤	<p>【授業内容】 踏み込み足の意義を理解し、踏み込み足を用いて打突を行う。連続技を踏み込み足で実践する。</p> <p>【授業方法】 踏み込み足の意義、実践方法を説明する。グループあるいは二人組にて踏み込み足を用いて竹刀打ちを行う。</p>	<p>（予習：0.5時間） 踏み込み足の方法を調べる。</p> <p>（復習：0.5時間） 踏み込み足の留意点を整理する。</p>

5	中村 佐藤	<p>【授業内容】 切り返しの方法を理解し、実践してみる。近い間合いから引きながらの打突方法を学び、実践する。</p> <p>【授業方法】 切り返しの実施方法を解説する。二人組にて、踏み込み足を用いた切り返しを相互に実施する。近い間合いから引きながら打突する方法を解説し、実践する。</p>	<p>(予習：0.5 時間)</p> <p>切り返しについて調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>切り返し実施上の留意点を整理する。</p>
6	中村 佐藤	<p>【授業内容】 仕掛け技、切り返しを行う。</p> <p>【授業方法】 二人組にて、仕掛け技および切り返しを確認しながら実施する。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>切り返しの実施方法を調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>切り返しの効用について整理する。</p>
7	中村 佐藤	<p>【授業内容】 抜き技、返し技の原理を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 グループごとに、抜き技および返し技を説明し、空間打突から実打に移行していく。</p>	<p>(予習：0.5 時間)</p> <p>抜き技と返し技の技術内容を調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>抜き技と返し技の竹刀と足さばきを整理する。</p>
8	中村 佐藤	<p>【授業内容】 すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の原理を理解し、習得する。</p> <p>【授業方法】 グループごとに、すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技を説明し、空間打突から実打に移行していく。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の技術内容を調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>すり上げ技、打ち落とし技、出ばな技の竹刀と足さばきを整理する。</p>
9	中村 佐藤	<p>【授業内容】 機会を意識しながら、仕掛け技と応じ技のまとめを行い、自己の得意技を考える。</p> <p>【授業方法】 打突の好機について解説する。二人組で、仕掛け技と応じ技を号令に従って実施し、自分の得意技を研究する。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>打突の好機について調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>打突の機会と各技を整理する。</p>
10	中村 佐藤	<p>【授業内容】 個人戦の勝敗決定方法を理解し、リーグ戦により個人戦を行う。</p> <p>【授業方法】 個人リーグ戦の順位決定方法を解説し、有段者が審判となって個人リーグ戦を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>自己の特長を踏まえて、試合で繰り出す得意技を考える。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>個人戦を振り返って、試合の進め方について考える。</p>

11	中村 佐藤	<p>【授業内容】 団体戦の運営要領を理解し、団体戦を行う。</p> <p>【授業方法】 団体戦の運営要領を解説し、その特性を紹介する。チーム分けを行い、団体リーグ戦を実施する。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>団体戦の実施要領を調べる。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>個人戦と団体戦で感じた違いを整理する。</p>
12	中村 佐藤	<p>【授業内容】 団体戦を行う。</p> <p>【授業方法】 チーム分けを行い、団体リーグ戦を実施する。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>自己の特長を踏まえて、戦術を考える。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>剣道の試合で味わえる楽しさを考える。</p>
13	中村 佐藤	<p>【授業内容】 実技試験を行う。</p> <p>【授業方法】 実技試験を行う。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>実技試験課題について準備する。</p> <p>(復習：0.5時間)</p> <p>試験を踏まえて課題の達成度を自己分析する。</p>
14	中村 佐藤	<p>【授業内容】 課題ビデオの視聴。</p> <p>【授業方法】 本授業では体感できなかった修業的側面を解説し、ビデオ視聴を通して理解させる。</p>	<p>(予習：0.5時間)</p> <p>剣道の武道的要素を考える。</p> <p>(復習：1時間)</p> <p>課題に対するレポートを作成する。</p>
		定期試験を実施しない。	

授業科目名	【新カリ】アウトドアスポーツA		授業形態	実技
英語科目名			開講学期	前期集中
対象学年	2		単位数	1.0
科目責任者	中嶽 誠			
科目担当者	中丸信吾			
授業概要	<p>【授業全体の内容】 本科目は、実技・実習の授業形態で行われる。「キャンプ」又は「レクリエーションスポーツ」からクラスを選択する。レクリエーションスポーツでは、各種スポーツやゲーム創作活動を実践する。アウトドアでの活動を安全に実施するためのリスクマネジメントについて学ぶとともに、自然環境の中で活動するに当たっての環境への配慮や対人関係づくり、レクリエーションスポーツとは何かを理解し、それらを実践及び指導できるようになることを目標とする。</p> <p>この授業科目は、各種レクリエーションスポーツやゲーム創作活動を通して、レクリエーションとは何か、レクリエーションなスポーツとは何かを理解し実践できるようになることを目的としている。授業内容は、様々なレクリエーションスポーツ、コミュニケーションの促進やチームビルディングなどに活かせるレクリエーションゲームについて学習する。また、授業内容をもとに新たなゲームを創作し発表会を行う。</p> <p>【授業の位置づけ（学位授与方針に定められた知識・能力等との関連）】 この科目は「社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力」という学位授与方針の達成に寄与する。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 様々なレクリエーションスポーツの実践を通して、レクリエーションとはどういうことかを理解できる。 2. スポーツの楽しさや楽しみ方を理解し、他者との関わり（コミュニケーション）も踏まえ、レクリエーションなスポーツ活動を理解し実践できるようになる。</p>			
成績評価	<p>【成績評価の基準】 1. 様々なレクリエーションスポーツの実践を通して、レクリエーションとはどういうことかを理解できているか、実技及びレポート試験により評価する。 2. スポーツの楽しさや楽しみ方を理解し、他者との関わり（コミュニケーション）も踏まえ、レクリエーションなスポーツ活動を理解し実践できる（授業への取り組み）。</p> <p>【成績評価の方法】 授業への取り組み50% 課題評価（ゲーム創作）30% レポート試験20%</p>			
履修における留意事項	<p>【履修要件】 本授業は、前期および後期にそれぞれ半期で開講している。また、配当学年は3年および4年としている。授業では、教育実習による欠席の配慮は行わないため、受講希望者は教育実習と重ならない学期・学年で履修すること。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートは、授業にて課題評価のポイントを説明しフィードバックを行う。 課題（ゲーム創作）は、成果物に対し教員および受講生からのフィードバックを行う。</p> <p>【テキスト・参考書等】 必要に応じて資料を配布する。 参考書：改訂版ニュースポーツ辞典、北川勇人、遊戯社、2000年</p>			
連絡先とオフィスアワー	<p>【連絡先】 担当： 中丸信吾 E-mail：snakama@juntendo.ac.jp</p> <p>【オフィスアワー】 質問や相談がある場合は、事前に連絡してください。</p>			
備考				

<p>【学修時間】 この授業は、実技の授業形態による1単位の科目であり、45時間（授業時間30時間以上を含む）の学修を必要とする内容を持って構成する。1回の授業時間は100分とする。</p> <p>【その他】 中・高教諭1種免許（保健体育）取得するための選択科目 科目：教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 保健体育） 施行規則に定める科目区分又は事項等：体育 この授業科目は、以下の資格取得の要件となっています。 JSP0（日本スポーツ協会）ジュニアスポーツ指導員</p>			
<p>授業計画 【授業内容と準備学修等】</p>			
授業回数	担当	授業内容（授業方法を含む）	準備学修（予習・復習）の内容、必要時間（レポ）
1	中丸	<p>【授業内容】 授業の到達目標や展開、成績評価、その他諸注意について理解する。 【授業方法】 授業の到達目標に沿った展開について説明し、成績評価、その他諸注意について明示する。</p>	<p>（予習：0.5時間） シラバスの内容を確認する。 （復習：0.5時間） 本授業の到達目標と展開、成績評価、諸注意について整理する。</p>
2	中丸	<p>【授業内容】 アイスブレイクについて実践し理解する。 【授業方法】 レクリエーションゲームを用いてアイスブレイクを実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） アイスブレイクについて調べる。 （復習：0.5時間） レクリエーションゲームを用いた交流の深め方について振り返る。</p>
3	中丸	<p>【授業内容】 フライングディスクのスローを実践し理解する。 【授業方法】 フライングディスクを遠くに安定して飛ばす方法を説明し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） フライングディスクについて調べる。 （復習：0.5時間） スローの種類やコツを整理する。</p>
4	中丸	<p>【授業内容】 フライングディスクを用いたゲーム（ディスクゴルフ）を実践し理解する。 【授業方法】 ディスクゴルフのルールや楽しみ方を説明し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ディスクゴルフについて調べる。 （復習：0.5時間） ディスクゴルフのルールを確認し理解を深める。</p>
5	中丸	<p>【授業内容】 フライングディスクを用いたゲーム（アルティメット）を実践し理解する。 【授業方法】 アルティメットのルールや楽しみ方を説明し実践する</p>	<p>（予習：0.5時間） アルティメットについて調べる。 （復習：0.5時間） アルティメットのルールを確認し理解を深める。</p>
6	中丸	<p>【授業内容】 ペタンクを実践しルールや楽しみ方を理解する。 【授業方法】 ペタンクのルールや楽しみ方を説明し実践する。</p>	<p>（予習：0.5時間） ペタンクについて調べる。 （復習：0.5時間） ペタンクのルールを確認し理解を深める。</p>

7	中丸	<p>【授業内容】 クップを実践しルールや楽しみ方を理解する。【授業方法】 クップのルールや楽しみ方を説明し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) クップについて調べる。 (復習：0.5時間) クップのルールを確認し理解を深める。</p>
8	中丸	<p>【授業内容】 インディアカを実践しルールや楽しみ方を理解する。 【授業方法】 インディアカのルールや楽しみ方を説明し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) インディアカについて調べる。 (復習：0.5時間) インディアカのルールを確認し理解を深める。</p>
9	中丸	<p>【授業内容】 ユニバーサルホッケーを実践しルールや楽しみ方を理解する。 【授業方法】 ユニバーサルホッケーのルールや楽しみ方を説明し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) ユニバーサルホッケーについて調べる。 (復習：0.5時間) ユニバーサルホッケーのルールを確認し理解を深める。</p>
10	中丸	<p>【授業内容】 スラックラインを実践し楽しみ方を理解する。 【授業方法】 スラックラインに上手にバランスよく乗るための方法を説明し習得する。</p>	<p>(予習：0.5時間) スラックラインについて調べる。 (復習：0.5時間) 上手に乗るための体の使い方について整理する。</p>
11	中丸	<p>【授業内容】 ASEを実践し理解する。 【授業方法】 小集団でのグループワークを通してASEを理解し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) チームビルディングについて調べる。 (復習：0.5時間) アクティビティを用いたチームビルディングについて理解を深める。</p>
12	中丸	<p>【授業内容】 ASEを実践しチームビルディングの過程を学ぶ。 【授業方法】 小集団でのグループワークを通してASEを理解し実践する。</p>	<p>(予習：0.5時間) チームビルディングについて調べる。 (復習：0.5時間) アクティビティを用いたチームビルディングについて理解を深める。</p>
13	中丸	<p>[授業内容] ゲームを創作する。 [授業方法] 小集団のグループワークによりゲームを創作しゲームシートにまとめる。</p>	<p>(予習：0.5時間) ゲームシートの原案を事前に準備する。 (復習：0.5時間) プレゼンテーションの準備をする。</p>
14	中丸	<p>[授業内容] 創作したゲームのプレゼンテーションを行う。 [授業方法] 創作ゲームのプレゼンテーションを行い、ゲームをより楽しむための意見を出し合う。</p>	<p>(予習：0.5時間) プレゼンテーションの準備をする。 (復習：1.5時間) ゲーム創作のアイデアを共有する。 授業内容を振り返りまとめる。</p>
		定期試験（レポート）	